

亀山東小学校体育館屋根改修工事

図面リスト	
図面番号	図面名称
A-01	建築工事特記仕様書(1)
A-02	建築工事特記仕様書(2)
A-03	建築工事特記仕様書(3)
A-04	建築工事特記仕様書(4)
A-05	建築工事特記仕様書(5)
A-06	建築工事特記仕様書(6)
A-07	建築工事特記仕様書(7)
A-08	改修概要・仕上表・周辺案内図・配置図
A-09	平面図
A-10	屋根伏図
A-11	立面図
A-12	断面詳細図
A-13	部分詳細図(1)
A-14	部分詳細図(2)
A-15	部分詳細図(3)
A-16	アリーナ床伏図
A-17	仮設計画図

令和5年3月

藤川設計株式会社

2	仮設便所	構内既存の施設 ・ 利用できる ○ 利用できない												
		構内既存の施設 ○ 利用できる (○ 有償 ・ 無償) ・ 利用できない												
8	工事用水	構内既存の施設 ○ 利用できる (○ 有償 ・ 無償) ・ 利用できない												
		構内既存の施設 ○ 利用できる (○ 有償 ・ 無償) ・ 利用できない 本工事で新規受電または既設電気回路に接続し通電した時から工事に起因する電力料金は、本工事に含まれる。												
9	工事用電力	配置 ・ 図示 (図面番号:)												
10	交通誘導警備員													
3	防水改修工事	1 アスファルト防水 (3.3.3)~(表3.3.3)~(表3.3.10)												
		<table border="1"> <thead> <tr> <th>工法</th> <th>種別</th> <th>施工箇所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>PIB</td> <td>B-1 ・ B-2 ・ B-3</td> <td></td> </tr> <tr> <td>PIE</td> <td>E-1 ・ E-2</td> <td></td> </tr> <tr> <td>P2E</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	工法	種別	施工箇所	PIB	B-1 ・ B-2 ・ B-3		PIE	E-1 ・ E-2		P2E		
		工法	種別	施工箇所										
		PIB	B-1 ・ B-2 ・ B-3											
		PIE	E-1 ・ E-2											
		P2E												
		改質アスファルトルーフィングシート 種類 ・ 改修標準仕様書(表3.3.3)~(表3.3.9)による ・ () 厚さ ・ 改修標準仕様書(表3.3.3)~(表3.3.9)による ・ ()												
		部分粘着層付改質アスファルトルーフィングシート 種類 ・ 改修標準仕様書(表3.3.3)~(表3.3.9)による ・ () 厚さ ・ 改修標準仕様書(表3.3.3)~(表3.3.9)による ・ ()												
		(3.3.2) 断熱工法の断熱材 (PIB1, P2A1, T1B1, POD1, M3D1, M4D1) 材質 ・ () ・ 押出法ポリスチレンフォーム断熱材3種 b A (スキンあり) ・ 硬質ウレタンフォーム断熱材2種 1号 ・ 硬質ウレタンフォーム断熱材2種 2号 厚さ ・ () ルーフレン回り及び立上がり部周辺断熱材の張りじまい位置 ・ 図示 (図面番号:)												
		(3.3.3) (2) (イ) 脱気装置 (M3D, POD, POD1, M3D1, M4D1) (3.3.3) (3) ・ 設ける (設置数量 ・ 図示 (図面番号:)、材質 ()) ・ 設けない ・ 仕上塗料 種類 () 使用量 ()												
(3.3.5) 保護コンクリートの厚さ 全て仕上げ ・ 水下80mm以上 ・ () 床タイル張り ・ 水下60mm以上 ・ ()														
(表8.1.5) 全て仕上げの場合のコンクリートの平たんさ ・ a種 ・ b種 ・ c種 保護層 ・ 設ける ・ 設けない 屋上排水溝の適用 ・ 適用する 立上り保護 ・ 乾式保護材 () ・ れんが (材質 ・ JIS R1250)														
2 改質アスファルトシート防水 (3.4.2)														
改質アスファルトシート 種類 ・ 改修標準仕様書(表3.4.1)~(表3.4.3)による ・ () 厚さ ・ 改修標準仕様書(表3.4.1)~(表3.4.3)による ・ () 粘着層付改質アスファルトシート及び部分粘着層付改質アスファルトシート 種類 ・ 改修標準仕様書(表3.4.1)~(表3.4.3)による ・ () 厚さ ・ 改修標準仕様書(表3.4.1)~(表3.4.3)による ・ () 断熱工法の断熱材 (M3AS1, M4AS1, POAS1) 材質、厚さ () 図示 ()														
(3.4.3) (表3.4.1)~(表3.4.3)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>工法</th> <th>種別</th> <th>種別</th> <th>仕上塗料</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>M4AS</td> <td>AS-T1 ・ AS-T2</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>AS-J2</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	工法	種別	種別	仕上塗料	M4AS	AS-T1 ・ AS-T2				AS-J2			
工法	種別	種別	仕上塗料											
M4AS	AS-T1 ・ AS-T2													
	AS-J2													
脱気装置 ・ 設ける (設置数量 ・ 図示 (図面番号:)、材質 ()) ・ 設けない														
ルーフィングシート 種類 ○ 改修標準仕様書(表3.5.1)~(表3.5.3)による ・ () 厚さ ○ 改修標準仕様書(表3.5.1)~(表3.5.3)による ・ ()														
(3.5.2) 絶縁シート ○ 発泡ポリエチレンシート 固定金具の材質及び寸法形状 ○ 図示 (A-13、14) 断熱工法の断熱材 (POS1, SAS1, S3S1, M4S1) 材質、厚さ () 図示 ()														
(3.5.3) (表3.5.1)~(表3.5.3)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>工法</th> <th>種別</th> <th>種別</th> <th>仕上塗料</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>S4S</td> <td>S-M2</td> <td>高耐久仕様</td> <td></td> </tr> <tr> <td>S3S1</td> <td>S-F2 (S1-F2)</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	工法	種別	種別	仕上塗料	S4S	S-M2	高耐久仕様		S3S1	S-F2 (S1-F2)			
工法	種別	種別	仕上塗料											
S4S	S-M2	高耐久仕様												
S3S1	S-F2 (S1-F2)													
(3.5.3) 脱気装置 ・ 設ける (設置数量 ・ 図示 (図面番号:)、材質 ()) ○ 設けない														
(3.5.4) 既存防水層下地がPCコンクリート部材の場合 目地処理 ・ 図示 (図面番号:) 増張り ・ 図示 (図面番号:) 保護層の施工 ・ 図示 (図面番号:)														
4 塗膜防水 (3.6.3) (表3.6.1) (3.6.3) (1)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>工法</th> <th>種別</th> <th>施工箇所</th> <th>仕上塗料</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>POX</td> <td>X-1 ・ X-2</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>L4X</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	工法	種別	施工箇所	仕上塗料	POX	X-1 ・ X-2			L4X				
工法	種別	施工箇所	仕上塗料											
POX	X-1 ・ X-2													
L4X														
(3.6.3) (2)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>工法</th> <th>種別</th> <th>施工箇所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>PIY</td> <td>Y-2</td> <td></td> </tr> <tr> <td>P2Y</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	工法	種別	施工箇所	PIY	Y-2		P2Y						
工法	種別	施工箇所												
PIY	Y-2													
P2Y														
保護層 ・ 図示 (図面番号:)														

5	既存防水層表面の仕上塗装の除去 (3.2.6) (3) (イ) (3.2.6) (3) (ロ)	(M4AS, M4AS1, M4C, M4D1) (L4X) ・ 行う ・ 行わない ・ 行う ・ 行わない																							
6	シーリング (3.7.2) (表3.7.1)	材料 <table border="1"> <thead> <tr> <th>種類</th> <th>材種</th> <th>施工箇所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>SR-1</td> <td>シリコーン系</td> <td></td> </tr> <tr> <td>MS-2</td> <td>変成シリコーン系</td> <td></td> </tr> <tr> <td>PS-2</td> <td>ポリサルファイド系</td> <td></td> </tr> <tr> <td>PU-2</td> <td>ポリウレタン系</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	種類	材種	施工箇所	SR-1	シリコーン系		MS-2	変成シリコーン系		PS-2	ポリサルファイド系		PU-2	ポリウレタン系									
種類	材種	施工箇所																							
SR-1	シリコーン系																								
MS-2	変成シリコーン系																								
PS-2	ポリサルファイド系																								
PU-2	ポリウレタン系																								
(3.7.4)~(7)	工法 ・ シーリング充填工法 ・ シーリング再充填工法 ・ 拡幅シーリング再充填工法 ・ フリッジ工法																								
(3.7.8)	シーリング材の試験 ・ 簡易接着性試験 ・ 引張接着性試験 ・ 行わない																								
7	とい (3.8.2) (表3.8.1) (表3.8.2)	材種 ・ 硬質ポリ塩化ビニル管 (カラー) ・ 配管用鋼管 (白管) ・ ()																							
	とい受金物及び足金物	<table border="1"> <thead> <tr> <th>といの材種</th> <th>形状</th> <th>取付け間隔</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	といの材種	形状	取付け間隔																				
といの材種	形状	取付け間隔																							
(3.9.2) (3) (表3.9.1)	8 アルミニウム製笠木 (3.9.2) (3) (表3.9.1)	部材の種類 ・ 押出し250形 ・ 押出し300形 ・ 押出し350形 ・ 板材折曲げ形 (本体幅 () mm、板厚 ・ 2.0mm ・ ())																							
(3.9.3) (2)	固定金具の間隔 (mm) 固定方法 ・ ()																								
(3.9.2) (4) (3.9.3)	表面処理 ・ () 工法 既存笠木等の撤去 ・ 図示 (図面番号:) 下地補修の工法 ・ 図示 (図面番号:) 板材折曲げ形の笠木の取付方法 ・ 図示 (図面番号:) 笠木固定金具の工法 ・ 図示 (図面番号:) 建築基準法に基づき定まる風圧力及び積雪荷重に対応した固定金具の間隔固定方法等は施工計画書として提出する。																								
4	外壁改修工事	1 施工数量調査 ・ 行う ・ 行わない 調査範囲 ・ 全面 ・ () 調査項目 ・ ひび割れ部 (幅0.2mm ・ 0.2mm~1.0mm ・ 1.0mm以上) ・ はがれ及びはく落部分 ・ 浮き部 調査方法 ・ 打診、目視及びクラックスケール等 (足場 ・ ゴンドラ) 報告書 2部 (立面図等に記載、必要に応じて写真添付)																							
		2 改修工法の種類 (4.1.4) (4.1.5)																							
		<table border="1"> <thead> <tr> <th>外壁</th> <th>種類</th> <th>改修工法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">・ コンクリート打放し仕上げ外壁</td> <td>ひび割れ部</td> <td>・ 樹脂注入工法 ・ Uカットシーリング材充填工法 ・ シール工法</td> </tr> <tr> <td>欠損部</td> <td>・ ()</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">・ モルタル塗り仕上げ外壁</td> <td>ひび割れ部</td> <td>・ 樹脂注入工法 ・ Uカットシーリング材充填工法 ・ シール工法</td> </tr> <tr> <td>欠損部</td> <td>・ 充填工法 ・ モルタル塗替え工法 ・ アンカーピンニング ・ 部分エポキシ樹脂注入工法 ・ 全面エポキシ樹脂注入工法 ・ 全面ポリマーセメントスラリー注入工法 ・ 注入口付アンカーピンニング ・ 部分エポキシ樹脂注入工法 ・ 全面エポキシ樹脂注入工法 ・ 全面ポリマーセメントスラリー注入工法</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">・ タイル張り仕上げ外壁</td> <td>ひび割れ部</td> <td>・ 樹脂注入工法 ・ Uカットシーリング材充填工法</td> </tr> <tr> <td>欠損部</td> <td>・ タイル部分張替え工法 ・ タイル張替え工法 ・ アンカーピンニング ・ 部分エポキシ樹脂注入工法 ・ 全面エポキシ樹脂注入工法 ・ 全面ポリマーセメントスラリー注入工法 ・ 注入口付アンカーピンニング ・ 部分エポキシ樹脂注入工法 ・ 全面エポキシ樹脂注入工法 ・ 全面ポリマーセメントスラリー注入工法 ・ エポキシ樹脂注入タイル固定工法 ・ タイル部分張替え工法 ・ タイル張替え工法</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">・ 塗り仕上げ外壁</td> <td>目地</td> <td>・ 目地ひび割れ部改修工法 ・ 伸縮調整目地改修工法</td> </tr> <tr> <td>新規仕上げ</td> <td>・ 薄付け仕上塗材塗り ・ 厚付け仕上塗材塗り ・ 覆層仕上塗材塗り ・ 可とう形改修用仕上塗材塗り ・ 各種塗料塗り ・ マスチック塗材塗り ・ 外壁用塗膜防水材塗り</td> </tr> </tbody> </table>	外壁	種類	改修工法	・ コンクリート打放し仕上げ外壁	ひび割れ部	・ 樹脂注入工法 ・ Uカットシーリング材充填工法 ・ シール工法	欠損部	・ ()	・ モルタル塗り仕上げ外壁	ひび割れ部	・ 樹脂注入工法 ・ Uカットシーリング材充填工法 ・ シール工法	欠損部	・ 充填工法 ・ モルタル塗替え工法 ・ アンカーピンニング ・ 部分エポキシ樹脂注入工法 ・ 全面エポキシ樹脂注入工法 ・ 全面ポリマーセメントスラリー注入工法 ・ 注入口付アンカーピンニング ・ 部分エポキシ樹脂注入工法 ・ 全面エポキシ樹脂注入工法 ・ 全面ポリマーセメントスラリー注入工法	・ タイル張り仕上げ外壁	ひび割れ部	・ 樹脂注入工法 ・ Uカットシーリング材充填工法	欠損部	・ タイル部分張替え工法 ・ タイル張替え工法 ・ アンカーピンニング ・ 部分エポキシ樹脂注入工法 ・ 全面エポキシ樹脂注入工法 ・ 全面ポリマーセメントスラリー注入工法 ・ 注入口付アンカーピンニング ・ 部分エポキシ樹脂注入工法 ・ 全面エポキシ樹脂注入工法 ・ 全面ポリマーセメントスラリー注入工法 ・ エポキシ樹脂注入タイル固定工法 ・ タイル部分張替え工法 ・ タイル張替え工法	・ 塗り仕上げ外壁	目地	・ 目地ひび割れ部改修工法 ・ 伸縮調整目地改修工法	新規仕上げ	・ 薄付け仕上塗材塗り ・ 厚付け仕上塗材塗り ・ 覆層仕上塗材塗り ・ 可とう形改修用仕上塗材塗り ・ 各種塗料塗り ・ マスチック塗材塗り ・ 外壁用塗膜防水材塗り
外壁	種類	改修工法																							
・ コンクリート打放し仕上げ外壁	ひび割れ部	・ 樹脂注入工法 ・ Uカットシーリング材充填工法 ・ シール工法																							
	欠損部	・ ()																							
・ モルタル塗り仕上げ外壁	ひび割れ部	・ 樹脂注入工法 ・ Uカットシーリング材充填工法 ・ シール工法																							
	欠損部	・ 充填工法 ・ モルタル塗替え工法 ・ アンカーピンニング ・ 部分エポキシ樹脂注入工法 ・ 全面エポキシ樹脂注入工法 ・ 全面ポリマーセメントスラリー注入工法 ・ 注入口付アンカーピンニング ・ 部分エポキシ樹脂注入工法 ・ 全面エポキシ樹脂注入工法 ・ 全面ポリマーセメントスラリー注入工法																							
・ タイル張り仕上げ外壁	ひび割れ部	・ 樹脂注入工法 ・ Uカットシーリング材充填工法																							
	欠損部	・ タイル部分張替え工法 ・ タイル張替え工法 ・ アンカーピンニング ・ 部分エポキシ樹脂注入工法 ・ 全面エポキシ樹脂注入工法 ・ 全面ポリマーセメントスラリー注入工法 ・ 注入口付アンカーピンニング ・ 部分エポキシ樹脂注入工法 ・ 全面エポキシ樹脂注入工法 ・ 全面ポリマーセメントスラリー注入工法 ・ エポキシ樹脂注入タイル固定工法 ・ タイル部分張替え工法 ・ タイル張替え工法																							
・ 塗り仕上げ外壁	目地	・ 目地ひび割れ部改修工法 ・ 伸縮調整目地改修工法																							
	新規仕上げ	・ 薄付け仕上塗材塗り ・ 厚付け仕上塗材塗り ・ 覆層仕上塗材塗り ・ 可とう形改修用仕上塗材塗り ・ 各種塗料塗り ・ マスチック塗材塗り ・ 外壁用塗膜防水材塗り																							

3	改修工法等 (4.2.2) (1) (4.2.2) (2) (4.2.2) (3) (4.2.2) (4) (4.2.2) (7) (4.2.2) (5) (4.2.2) (5) (4.2.2) (5) (4.2.2) (6) (4.2.2) (6) (4.2.2) (8) (4.2.2) (8) (4.2.2) (9) (4.2.2) (9)	<ul style="list-style-type: none"> 樹脂注入工法 <ul style="list-style-type: none"> 種類 ・ 自動式低圧エポキシ樹脂注入工法 <ul style="list-style-type: none"> 注入量 () 注入間隔 () 手動式エポキシ樹脂注入工法 <ul style="list-style-type: none"> 注入量 () 注入間隔 () 機械式エポキシ樹脂注入工法 <ul style="list-style-type: none"> 注入量 () 注入間隔 () 材料 エポキシ樹脂JIS A6024 (建築補修用注入エポキシ樹脂) <ul style="list-style-type: none"> 低粘度形 ・ 中粘度形 コア抜取検査 ・ 行う ・ 行わない <ul style="list-style-type: none"> 抜取り箇所 () 抜取り部分補修方法 () Uカットシーリング材充填工法 <ul style="list-style-type: none"> 材料 ・ シーリング材充填 (・ PU-1 ・ PU-2 ・ ()) ・ 可とう性エポキシ樹脂充填 シーリング材の上にポリマーセメントモルタル充填 ・ 行う ・ 行わない シール工法 <ul style="list-style-type: none"> 材料 ・ バテ状エポキシ樹脂 ・ 可とう性エポキシ樹脂 充填工法 <ul style="list-style-type: none"> 材料 ・ エポキシ樹脂モルタル ・ ポリマーセメントモルタル モルタル塗替え工法 <ul style="list-style-type: none"> 材料 ・ 現場調査材料 ・ 既調査材料 ・ 既製目地材の適用及び形状 () ・ 仕上げ厚 () アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法 <ul style="list-style-type: none"> アンカーピンの本数 ・ 標準 ・ () 材料 ・ ステンレス鋼 (SUS304) ・ () アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法 <ul style="list-style-type: none"> アンカーピンの本数及び注入口の数 ・ 標準 ・ () 材料 ・ ステンレス鋼 (SUS304) ・ () アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法 <ul style="list-style-type: none"> アンカーピンの本数及び注入口の数 ・ 標準 ・ () 材料 ・ ステンレス鋼 (SUS304) ・ () 注入口付アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法 <ul style="list-style-type: none"> 注入口付アンカーピンの本数 ・ 標準 ・ () 材料 ・ ステンレス鋼 (SUS304) ・ () 呼び径 ・ 6mm ・ () 注入口付アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法 <ul style="list-style-type: none"> 注入口付アンカーピンの本数及び注入口の数 ・ 標準 ・ () 材料 ・ ステンレス鋼 (SUS304) ・ () 呼び径 ・ 6mm ・ () 注入口付アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法 <ul style="list-style-type: none"> 注入口付アンカーピンの本数及び注入口の配置 ・ 標準 ・ () 材料 ・ ポリマーセメントスラリー () ・ 注入口付アンカーピン (・ ステンレス鋼 (SUS304) ・ ()) 呼び径 ・ 6mm ・ () タイル部分張替え工法 <ul style="list-style-type: none"> 張替え材料 ・ ポリマーセメントモルタル ・ 接着剤 (一液反応硬化形変成シリコーン樹脂) ・ () 																								
		<table border="1"> <thead> <tr> <th>施工箇所</th> <th>形状</th> <th>寸法</th> <th>耐滑り性</th> <th>標準・特注色の別</th> <th>耐凍害性の有無</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	施工箇所	形状	寸法	耐滑り性	標準・特注色の別	耐凍害性の有無																		
施工箇所	形状	寸法	耐滑り性	標準・特注色の別	耐凍害性の有無																					
					<ul style="list-style-type: none"> 役物 (・ 一体成形 ・ 接着加工) 試験張り ・ 行う ・ 行わない 見本焼き ・ 行う ・ 行わない 既調査モルタル ・ 使用する ・ 使用しない 																					
					<table border="1"> <thead> <tr> <th>タイルの種類</th> <th>タイルの大きさ</th> <th>工法</th> <th>塗り厚(mm)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">・ 外装 タイル</td> <td rowspan="2">小口以上二丁掛け以下</td> <td>・ 密着張り</td> <td>5~8</td> </tr> <tr> <td>・ 改良積み上げ張り</td> <td>7~10</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">・ ユニットタイル</td> <td rowspan="2">・ 25mm角を超え小口未満 ・ 小口未満</td> <td>・ 改良圧着張り</td> <td>下地側 4~6 タイル側 3~4</td> </tr> <tr> <td>・ マスク張り</td> <td>3~4</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>・ モザイクタイル貼り</td> <td>3~5</td> </tr> </tbody> </table>	タイルの種類	タイルの大きさ	工法	塗り厚(mm)	・ 外装 タイル	小口以上二丁掛け以下	・ 密着張り	5~8	・ 改良積み上げ張り	7~10	・ ユニットタイル	・ 25mm角を超え小口未満 ・ 小口未満	・ 改良圧着張り	下地側 4~6 タイル側 3~4	・ マスク張り	3~4			・ モザイクタイル貼り	3~5	
タイルの種類	タイルの大きさ	工法	塗り厚(mm)																							
・ 外装 タイル	小口以上二丁掛け以下	・ 密着張り	5~8																							
		・ 改良積み上げ張り	7~10																							
・ ユニットタイル	・ 25mm角を超え小口未満 ・ 小口未満	・ 改良圧着張り	下地側 4~6 タイル側 3~4																							
		・ マスク張り	3~4																							
		・ モザイクタイル貼り	3~5																							
					<ul style="list-style-type: none"> 注入口付アンカーピンニングエポキシ樹脂注入タイル固定工法 <ul style="list-style-type: none"> 注入口付アンカーピンの本数 (本) 目地ひび割れ部改修工法 伸縮調整目地改修工法 <ul style="list-style-type: none"> 伸縮調整目地 (位置 寸法 ×) 検査 シーリング接着性試験 ・ 行う (・ 簡易接着性試験 ・ 引張接着性試験) 																					

4 塗り仕上げ (4.2.2) (10) (表4.2.4(その1) (その2))	種類	呼び名	仕上げ形状	工法																																																																						
	薄付け仕上塗材	・ 外装薄塗材 E	・ 砂壁状 ・ ゆず肌状	吹付け																																																																						
			・ 平たん状 ・ 凹凸状	こて																																																																						
	厚付け仕上塗材	・ 外装厚塗材 C	・ ゆず肌状 ・ さざ波状	ローラー																																																																						
			・ 着色骨材砂壁状	・ 吹付け ・ こて																																																																						
			・ 吹放し ・ 凸部処理	吹付け																																																																						
			・ 平たん状 ・ 凹凸状 ・ ひき起し ・ 掻き落とし	こて																																																																						
	複層仕上塗材	・ 外装厚塗材 Si ・ 外装厚塗材 E	・ 吹放し ・ 凸部処理	吹付け																																																																						
			・ 平たん状 ・ 凹凸状 ・ ひき起し	・ こて ・ ローラー																																																																						
	可とう形改修用 仕上塗材	・ 可とう形改修塗材 E ・ 可とう形改修塗材 RE ・ 可とう形改修塗材 CE	・ ゆず肌状	ローラー																																																																						
・ 平たん状 ・ さざ波状 ・ ゆず肌状			吹付け																																																																							
(4.7.2) (表4.7.1) (表4.2.5)	・ 外装厚塗材 C の上塗材がセメントスタッコ以外の場合 材所要量 (kg/m ²) ・ マスチック塗材塗り ・ A種 ・ B種 複層仕上塗材及び可とう形改修塗材の上塗材の種類 <table border="1"> <tr> <th>樹脂種類</th> <th>溶媒種類</th> <th>外 観</th> </tr> <tr> <td rowspan="2">・ アクリル系</td> <td>・ 溶剤系</td> <td>・ 艶有 ・ 艶無 ・ メタリック</td> </tr> <tr> <td>・ 弱溶剤系</td> <td>・ 艶有 ・ 艶無</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">・ シリカ系</td> <td>・ 水系</td> <td>・ 艶有 ・ 艶無</td> </tr> <tr> <td>・ 水系</td> <td>・ 艶無</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">・ ポリウレタン系</td> <td>・ 溶剤系</td> <td>・ 艶有 ・ 艶無 ・ メタリック</td> </tr> <tr> <td>・ 弱溶剤系</td> <td>・ 艶有 ・ 艶無</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">・ アクリル シリコン系</td> <td>・ 水系</td> <td>・ 艶有 ・ 艶無</td> </tr> <tr> <td>・ 水系</td> <td>・ 艶有 ・ 艶無</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">・ ふっ素系</td> <td>・ 溶剤系</td> <td>・ 艶有 ・ 艶無 ・ メタリック</td> </tr> <tr> <td>・ 弱溶剤系</td> <td>・ 艶有 ・ 艶無</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">(表4.2.6)</td> <td>・ 水系</td> <td>・ 艶有 ・ 艶無</td> </tr> <tr> <td colspan="4">(注) 艶無及びメタリックは、可とう形複層塗材、防水形複層塗材、及び可とう形改修塗材には適用しない。</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">(表4.6.3)</td> <td colspan="4">外壁用塗膜防水材の仕上げの形状及び工法</td> </tr> <tr> <td>種類</td> <td>仕上げの形状</td> <td colspan="2">工法</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">(表4.6.4)</td> <td rowspan="2">外壁用塗膜防水材</td> <td>・ 凹凸状</td> <td colspan="2">吹付け</td> </tr> <tr> <td>・ 凸部処理 ・ ゆず肌状 ・ さざ波状</td> <td colspan="2">ローラー</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">(表4.6.3)</td> <td colspan="4">既存塗膜等の除去及び下地処理</td> </tr> <tr> <td>工法</td> <td colspan="3">処理範囲</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">(表4.6.4)</td> <td rowspan="2">下地調整</td> <td>・ C-1</td> <td>・ C-2</td> <td>・ CM-2</td> </tr> <tr> <td>・ E</td> <td colspan="3">・ ()</td> </tr> </table>				樹脂種類	溶媒種類	外 観	・ アクリル系	・ 溶剤系	・ 艶有 ・ 艶無 ・ メタリック	・ 弱溶剤系	・ 艶有 ・ 艶無	・ シリカ系	・ 水系	・ 艶有 ・ 艶無	・ 水系	・ 艶無	・ ポリウレタン系	・ 溶剤系	・ 艶有 ・ 艶無 ・ メタリック	・ 弱溶剤系	・ 艶有 ・ 艶無	・ アクリル シリコン系	・ 水系	・ 艶有 ・ 艶無	・ 水系	・ 艶有 ・ 艶無	・ ふっ素系	・ 溶剤系	・ 艶有 ・ 艶無 ・ メタリック	・ 弱溶剤系	・ 艶有 ・ 艶無	(表4.2.6)	・ 水系	・ 艶有 ・ 艶無	(注) 艶無及びメタリックは、可とう形複層塗材、防水形複層塗材、及び可とう形改修塗材には適用しない。				(表4.6.3)	外壁用塗膜防水材の仕上げの形状及び工法				種類	仕上げの形状	工法		(表4.6.4)	外壁用塗膜防水材	・ 凹凸状	吹付け		・ 凸部処理 ・ ゆず肌状 ・ さざ波状	ローラー		(表4.6.3)	既存塗膜等の除去及び下地処理				工法	処理範囲			(表4.6.4)	下地調整	・ C-1	・ C-2	・ CM-2	・ E	・ ()		
樹脂種類	溶媒種類	外 観																																																																								
・ アクリル系	・ 溶剤系	・ 艶有 ・ 艶無 ・ メタリック																																																																								
	・ 弱溶剤系	・ 艶有 ・ 艶無																																																																								
・ シリカ系	・ 水系	・ 艶有 ・ 艶無																																																																								
	・ 水系	・ 艶無																																																																								
・ ポリウレタン系	・ 溶剤系	・ 艶有 ・ 艶無 ・ メタリック																																																																								
	・ 弱溶剤系	・ 艶有 ・ 艶無																																																																								
・ アクリル シリコン系	・ 水系	・ 艶有 ・ 艶無																																																																								
	・ 水系	・ 艶有 ・ 艶無																																																																								
・ ふっ素系	・ 溶剤系	・ 艶有 ・ 艶無 ・ メタリック																																																																								
	・ 弱溶剤系	・ 艶有 ・ 艶無																																																																								
(表4.2.6)	・ 水系	・ 艶有 ・ 艶無																																																																								
	(注) 艶無及びメタリックは、可とう形複層塗材、防水形複層塗材、及び可とう形改修塗材には適用しない。																																																																									
(表4.6.3)	外壁用塗膜防水材の仕上げの形状及び工法																																																																									
	種類	仕上げの形状	工法																																																																							
(表4.6.4)	外壁用塗膜防水材	・ 凹凸状	吹付け																																																																							
		・ 凸部処理 ・ ゆず肌状 ・ さざ波状	ローラー																																																																							
(表4.6.3)	既存塗膜等の除去及び下地処理																																																																									
	工法	処理範囲																																																																								
(表4.6.4)	下地調整	・ C-1	・ C-2	・ CM-2																																																																						
		・ E	・ ()																																																																							

7 網戸 (5.2.3) (5)	・ 可動式 ・ 固定式	・ 防虫網の材質 ・ 合成樹脂製 ・ ガラス繊維入り合成樹脂製 ・ ステンレス(SUS316)製	・ 網目 ・ 16メッシュ ・ 18メッシュ	
	8 樹脂製建具 (5.3.2)~(5.3.5) (表5.3.1)~ (表5.3.3)	外部に面する樹脂製建具の性能等級等 ・ A種 ・ B種 ・ C種		
		・ 防音ドアセット、防音サッシ(等級) ・ 断熱ドアセット、断熱サッシ(等級) ガラス ・ 複層ガラス ・ () 建具枠見込寸法 ・ 図示(図面番号:) 水切り ・ 図示(図面番号:) ぜん板 ・ 図示(図面番号:) 丁香 ・ 改修標準仕様書(表5.7.3)による ・ 図示(図面番号:)		
	9 鋼製建具 (5.4.2)	鋼製建具の性能等級 ・ 簡易気密性ドアセット ・ 外部に面する建具の耐風圧 ・ S-4 ・ S-5 ・ S-6		
		・ 防音ドアセット、防音サッシ(等級) ・ 断熱ドアセット、断熱サッシ(等級) ・ 耐震ドアセット(等級)		
	(5.4.4)	・ H2400又はH950の建具 鋼板類の厚さ ・ 図示(図面番号:)		
		鋼製軽量建具の性能等級 ・ 簡易気密性ドアセット ・ 防音ドアセット、防音サッシ(等級) ・ 断熱ドアセット、断熱サッシ(等級) ・ 耐震ドアセット(等級)		
	10 鋼製軽量建具 (5.5.2) (5.5.5) (5.2.2) (2) (5.5.3) (5.5.4) (5.6.3) (1) (5.2.3) (1)	鋼製軽量建具の性能等級 ・ 簡易気密性ドアセット ・ 防音ドアセット、防音サッシ(等級) ・ 断熱ドアセット、断熱サッシ(等級) ・ 耐震ドアセット(等級)		
		H2400又はH950の建具 鋼板類の厚さ ・ 図示(図面番号:)		
	11 ステンレス製 建具 (5.6.2) (5.4.2)	表面仕上げ ・ 塗装 ・ ビニル被覆鋼板 ・ カラー鋼板 ・ ステンレス鋼板(・ HL ・ 鏡面) ・ ()		
ステンレス製建具の性能等級 ・ 簡易気密性ドアセット ・ 外部に面する建具の耐風圧 ・ S-4 ・ S-5 ・ S-6				
(5.6.3)	・ 防音ドアセット、防音サッシ(等級) ・ 断熱ドアセット、断熱サッシ(等級) ・ 耐震ドアセット(等級)			
	材料 ・ SUS304 ・ ()			
(5.6.4)	表面仕上げ ・ HL仕上げ ・ ()			
	曲げ加工 ・ 普通曲げ ・ 角出し曲げ			
(5.6.5)	金物の見え掛り部等の材質等 ・ 改修標準仕様書(表5.7.1)による ・ 図示(図面番号:)			
	マスターキー ・ 製作する ・ 製作しない 引渡用鍵箱 ・ 必要 ・ 不要			
12 建具用金物 (5.7.2)	駆動装置及び検出装置の性能値 (・ 多機能トイレ出入口) ・ 図示(図面番号:)			
	引き戸用検出装置の種類 ・ 図示(図面番号:)			
13 自動ドア開閉 装置 (5.8.2)	凍結防止措置 ・ あり ・ なし			
	自閉式上吊り引戸装置の性能値 ・ 改修標準仕様書(表5.9.1)による ・ ()			
(5.8.3) (表5.8.4)	種類 ・ 一般重量シャッター ・ 外壁用防火シャッター ・ 屋内用防火シャッター ・ 防煙シャッター			
	耐風圧強度 (Pa以上)			
(5.8.3) (7)	開閉機能 ・ 上部電動式(手動併用) ・ 上部手動式			
	一般重量シャッターのシャッターケース ・ 設ける ・ 設けない ・ めっき付着量 ・ Z12 ・ F12 ・ ()			
14 自閉式上吊り 引戸装置 (5.9.3)	開閉形式 ・ 上部電動式(手動併用) ・ 手動式			
	耐風圧強度 (Pa以上)			
15 重量シャッター — (5.10.2) (5.10.3)	スラットの材質及び形状 ・ インターロッキング形 ・ オーバーラッピング形 ・ めっき付着量 JIS G 3312 ・ Z06 ・ F06 ・ () JIS G 3322 ・ AZ90 ・ ()			
	開閉形式 ・ 上部電動式(手動併用) ・ 手動式			
16 軽量シャッター — (5.11.2) (表5.11.1) (5.11.3) (5.11.4)	スラットの材質及び形状 ・ インターロッキング形 ・ オーバーラッピング形 ・ めっき付着量 JIS G 3312 ・ Z06 ・ F06 ・ () JIS G 3322 ・ AZ90 ・ ()			
	開閉形式 ・ 上部電動式(手動併用) ・ 手動式			

17 オーバーヘッ ドドア (5.12.2)	型式及び機構 セクション材料 ・ スチールタイプ ・ アルミニウムタイプ ・ ファイバーグラスタイプ	耐風圧強度 (Pa以上)	開閉方式 ・ バランス式 ・ チェーン式 ・ 電動式	収納形式 ・ スタンダード形 ・ ローヘッド形 ・ ハイリフト形 ・ パーチカル形	ガイドレール ・ 溶融亜鉛めっき鋼板 ・ ステンレス鋼板	
	18 板ガラス (5.13.2) (1) (5.13.4)	・ 図示(図面番号:)				
		19 ガラス留め材 (5.13.2) (2)				
	20 ガラス清の寸 法、形状等 (5.13.3)					
	21 ガラスブロッ ク積み (5.13.5)					
	ガラスブロック 表面形状、寸法、厚さ ・ 図示(図面番号:) 金属枠、補強材 ・ 図示(図面番号:)					
	化粧カバー ・ 図示(図面番号:) 工法 ・ 図示(図面番号:) 建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法を施行計画書として提出する。					
	6 内装 改修 工事	1 一般事項 (6.1.3) (2)	既存間仕壁の撤去に伴う取り合い部分の改修範囲 改修部分 改 修 範 囲 ・ 天井 ・ 図示(図面番号:) ・ 壁 ・ 図示(図面番号:) ・ 床 ・ 図示(図面番号:)			
		(6.1.3) (3)	天井内の既存壁の撤去に伴う取り合い部の天井改修範囲 ・ 図示(図面番号:) ・ ()			
		(6.1.3) (5)	天井の撤去に伴う取り合い部の壁面改修 ・ 図示(図面番号:) ・ ()			
2 既存床撤去、下 地補修 (6.2.2) (1) (7)		既存床仕上げ材の除去等 浮き、欠損部等による下地モルタルの撤去 ・ 行う ・ 行わない				
(6.2.2) (1) (4)		合成樹脂塗膜の除去等 ・ 機械的除去工法 ・ 目荒し工法				
(6.2.2) (3)		改修後の床の清掃範囲 ○ 施工範囲及び施工によって汚れが生じた範囲 ・ ()				
3 既存壁撤去、下 地補修 (6.3.2)		既存間仕壁の撤去に伴う他の構造体の補修工法 ・ ()				
4 木下地等 (6.5.1) (3) (表6.5.1) (表6.5.2)		表面仕上げ 機械加工 ・ A種 ・ B種 ・ C種 手加工 ・ H-A種 ・ H-B種 ・ H-C種				
(6.5.2) (1) (4) (表6.5.3)		木材の含水率(工事現場搬入時・質量比) 部材名称 種 別 下地材 ・ A種 ・ B種 造作材 ・ A種 ・ B種				
(6.5.2) (2) (7)		製材 「製材の日本農林規格」による製材 部位 樹種・寸法・形状 等級 含水率 保存処理 材面の品質 下地用 針葉樹製材 ・ 図示(図面番号:) ・ () ・ () ・ () ・ () 造作用 針葉樹製材 ・ 図示(図面番号:) ・ () ・ () ・ () ・ () 広葉樹製材 ・ 図示(図面番号:) ・ () ・ () ・ () ・ ()				
(6.5.2) (2) (4) (6.5.2) (2) (7) (表6.5.4)	「製材の日本農林規格」以外の製材 樹種、寸法、材面の品質、防虫処理、含水率 ・ 図示(図面番号:) 造作材の材面の品質 ・ A種 ・ () 樹種 部 位 樹 種 県 産 材 ・ ・ ・					
(6.5.2) (3) (7)	造作用集成材 「集成材の日本農林規格」による造作用集成材 部 位 品 名 ・ 樹 種 見付け材面の寸法・品質・数 厚さ 造作用集成材 ・ 図示(図面番号:) ・ 図示(図面番号:) 化粧ばり造作用集成材 ・ 図示(図面番号:) ・ 図示(図面番号:) 化粧ばり構造用集成材 ・ 図示(図面番号:) ・ ()					

(6.5.2)(3)(4)	「集成材の日本農林規格」以外の製材 樹種、寸法、見付け材面の品質・図示(図面番号: 含水率・15%以下・()
(6.5.2)(4)(7)	造作用単板積層材 「単板積層材の日本農林規格」による造作用単板積層材 部位 品名・寸法 表面の品質 防虫処理 造作用単板積層材 図示(図面番号: () () ()
(6.5.2)(4)(4)	「単板積層材の日本農林規格」以外の造作用単板積層材 寸法、表面の品質、防虫処理・図示(図面番号: 含水率・14%以下・()
(6.5.2)(5)	「直文集成材の日本農林規格」による直文集成材 品名、曲げ強度、種別、接着性能、樹種及び寸法・図示(図面番号: ()
(6.5.2)(6)	合板等 品名(品目) 樹種名 接着の程度 等級 板面の品質 防虫処理等 厚さ
(6.5.3)(1)	接合具等 造作材化粧面の釘打ち・隠し釘打ち・()
(6.5.3)(2)	諸金物 形状、寸法及び材質・図示(図面番号: ()
(6.5.5)(1)	防蟻、防蟻処理 適用部位 図示(図面番号: 保存処理性能区分() 薬剤の塗布等の処理方法() 附属書Aに基づく表面処理用木材保存剤・適用する(・薬剤の種類()・適用部位()) ボード原料接着剤への防蟻・防蟻処理()
(6.5.5)(2)	防虫処理 図示(図面番号: ()
5 軽量鉄骨天井下地 (6.6.2) (表6.6.1) (6.6.3)	野縁等の種類 ・ 屋内・19形・() ・ 屋外・25形・() 形式及び寸法 ・ 屋外 図示(図面番号: ・ 耐震天井 図示(図面番号: ・ ふところ≧1.5m 改修標準仕様書(6.6.4)(8) 図示(図面番号: ()
(6.6.4)	既存埋込みインサート ・ 使用する・使用しない(※使用する場合は、確認試験を行う) 既存埋込みインサート、あと施工アンカーの確認試験 ・ 行う(図示(図面番号: ・ 確認試験の箇所数(箇所) 確認強度() 耐震性・耐風圧性を考慮した補強 ・ 図示(図面番号: ()
6 軽量鉄骨壁下地 (6.7.3)	スタッド、ランナー等の種類 ・ 65形
7 ビニル床シート、 ビニル床タイル 及びゴム床タイ ル張り (6.8.2) (6.8.2)(1)	材料 ・ ビニル床シート【JIS A 5705(ビニル系床材)】 種類の記号 色柄 厚さ 備考 FS 無地 2.5mm
(6.8.2)(2)	・ ビニル床タイル【JIS A 5705(ビニル系床材)】 種類の記号 色柄 寸法 厚さ 備考 KT 2.0mm
(6.8.2)(3)(7)(4)	・ 帯電防止床シート又は床タイル 種類 性能 寸法 厚さ 備考
(6.8.2)(3)(9)	・ 視覚障害者用床タイル 種類 形状 備考 ビニル床タイル 300×300×7.0mm
(6.8.2)(3)(2)	・ 耐動荷重性床シート 種類 厚さ 備考
(6.8.2)(3)(4)(4)	・ 防滑性床シート又は床タイル 種類 寸法 厚さ 備考
(6.8.2)(5)	・ ゴム床タイル 種類 色柄 寸法 厚さ 備考
(6.8.3)(1)	工法 下地・モルタル塗り・セルフレベリング材塗り・木下地・その他()

(6.8.3)(2)(9)	ビニル床シート張り 熱溶接工法・適用する・適用しない
8 カーベット敷き (6.9.3)(1) (表6.9.1)	・ 織じゅうたん 種類 糸の種類 バイルの形状 帯電性 品質の程度 色柄 ・ A種 ・ 羊毛 ・ カットバイル ・ 人体帯電圧 ・ () ・ 無地 ・ B種 ・ 紡糸 ・ ループバイル ・ 3KV以下 ・ C種 ・ () ・ カット、ループ併用 ・ () 品質の程度欄に記載した商品名は、品質の程度を示すための参考商品名である。(以下同様)
(6.9.2)(2) (表6.9.2)	・ タフテッドカーベット バイルの形状 バイル長(mm) 帯電性 工法 品質の程度 ・ カットバイル ・ 人体帯電圧 ・ 全面接着工法 ・ ループバイル ・ 3KV以下 ・ グリッパー工法 ・ カット、ループ併用 ・ ()
(6.9.2)(3)	・ ニードルパンチカーベット 厚さ(mm) 帯電性 備考 ・ 人体帯電圧 ・ 3KV以下 ・ ()
(6.9.2)(4) (表6.9.2)	・ タイルカーベット 種類 バイルの形状 寸法(mm) 総厚さ(mm) 品質の程度 ・ カットバイル ・ 500×500 ・ 6.5 ・ ループバイル ・ () ・ ()
(6.9.2)(5)	下敷き材 ・ 第2種第2号、厚さ8mm・() 見切り、押え金物 ・ 適用する(材質、種類及び形状・図示(図面番号: ())
(6.9.3)(3)	織じゅうたんの接合方法 ・ ヒートボンド工法・()
(6.9.3)(5)	タイルカーベットの敷き方 平場 ・ 市松敷き・模様流し・() 階段部分 ・ 市松敷き・模様流し・()
9 合成樹脂塗床 (6.10.3)(2)(a) (表6.10.4) (6.10.3)(2)(b) (6.10.3)(3) (表6.10.5)~ (表6.10.8)	弾性ウレタン樹脂系塗床の仕上げ種類、工程 ・ 平滑仕上げ・防滑仕上げ・つや消し仕上げ エポキシ樹脂系塗床の仕上げ種類 ・ 薄膜流しのべ仕上げ(・平滑・防滑)・厚膜流しのべ仕上げ(・平滑・防滑) ・ 樹脂モルタル仕上げ(・平滑・防滑)・薄膜型塗床仕上げ(・平滑)
10 フローリング 張り (6.11.4) (表6.11.2)	・ 釘留め工法 材料 種別 樹種 ・ フローリングボード(根太張用) ・ A種 ・ なら ・ 複合フローリング(根太張用) ・ B種 ・ () ・ C種 防湿処理・図示(図面番号: ()
(6.11.5) (表6.11.5) (表6.11.6)	○ 接着工法 材種 樹種 厚さ 大きさ ○ フローリングボード(直張用) 16.0 455×1820 ・ フローリングブロック(直張用) なら ・ 複合フローリング(直張用) ・ () ・ A種 ・ B種 ・ C種 緩衝材・合成樹脂発泡シート・図示(図面番号: ()
(6.11.6)(3)	塗装 ○ ウレタン樹脂ワニス塗り(1液形、B種) ・ オイルステイン塗りのうえワックス塗り ・ 生地そのままワックス塗り () 種別 ・ A種 ・ B種 ・ C種 ・ D種 ・ D種の畳床KT-(・I・II・III・K・N)
11 畳敷き (6.12.2) (表6.12.1)	種類 ・ A種 ・ B種 ・ C種 ・ D種 ・ D種の畳床KT-(・I・II・III・K・N)
12 セッコウボ ード、その他 ボード及び合 板張り (6.13.2) (表6.13.1)	材種 種別 厚さ(mm) ・ セッコウボード 壁 ・ 9.5(準不燃) ・ 12.5(不燃) 天井 ・ 9.5(準不燃) ・ 12.5(不燃) ・ 化粧セッコウボード ・ トラバーチン模様 ・ 9.5(不燃) ・ 9.5(準不燃) ・ 木目模様 ・ 9.5(不燃) ・ 9.5(準不燃) ・ ロックウール化粧吸音板 ・ 普通 ・ 9() ・ () ・ 立体模様 ・ 9() ・ () ・ けい酸カルシウム板 ・ タイプII 0.8FK
(6.13.2)(8)	遮音シール材 ・ シーリング材・ジョイントコンパウンド
(6.13.3)(5)(9)	合板類の張付け ・ A種 ・ B種
(6.13.3)(7)(7) (表6.13.5)	セッコウボードの目地工法 ・ 織目処理・突付け・目透し
13 壁紙張り (6.14.2)	施工箇所 種類 防火性能 ・ 不燃 ・ 準不燃 ・ 不燃 ・ 準不燃 ・ 不燃 ・ 準不燃

14 モルタル塗り (6.15.3) (6.15.5) (6.15.6)	モルタル・現場調合材料・既調合材料 既製目地材・使用する(形状: () 床の目地・図示(図面番号: () 下地処理・壁面の仕上げ厚又は全塗り厚が25mm超 図示(図面番号: ()
15 タイル張り (6.16.2) (6.16.3)	伸縮調整目地 位置・図示(図面番号: () タイルの種類 施工箇所 形状 寸法 耐滑り性 標準・特注色の別 耐凍害性の有無
(6.16.3)(2)	試験張り・行う・行わない 見本焼き・行う・行わない 既調合モルタル・使用できる・使用できない
16 セルフレベ リング材塗り (6.17.2) (6.17.3)	・ セッコウ系 ・ セメント系 塗厚()mm
17 断熱材 (9.5.2)	断熱材打込み工法 種類 種別 厚さ(mm) 施工箇所 ・ ビーズ法ポリスチレンフォーム ・ 押出法ポリスチレンフォーム ・ A種硬質ウレタンフォーム ・ フェノールフォーム
(9.5.3)	断熱材現場発泡工法(吹付硬質ウレタンフォーム) 種類 厚さ[mm] 施工箇所 ・ A種1 ・ A種1H ・ () ・ 窓回り等の断熱材補修部分、ルーフトン回りの床版 下等、部分的に後張りとしなければならない箇所 ・ ()
7 塗装改修工事	1 材料 (7.1.3) ・ 屋内の壁、天井仕上げは防火材料とする。 ・ 次の箇所を除き防火材料とする。(箇所: () 2 下地調整 (7.2.1~7.2.7) (表7.2.1)~ (表7.2.7) 既存塗膜の除去範囲(塗り替えてR B種の場合) ・ 図示 種別 下地 種別 ひび割れ部の補修 ・ 木部 ・ RA種 ・ RB種 ・ RC種 ・ 鉄鋼面 ・ RA種 ・ RB種 ・ RC種 ・ 垂れめつき鋼面 ・ RA種 ・ RB種 ・ RC種 ・ モルタル、プラスター面 ・ RA種 ・ RB種 ・ RC種 ・ 行う ・ コンクリート、ALCパネル面 ・ RA種 ・ RB種 ・ RC種 ・ 行う ・ コンクリート、押出成形セメント板面 ・ RA種 ・ RB種 ・ RC種 ・ 行う ・ セッコウボード、その他ボード面 ・ RA種 ・ RB種 ・ RC種 3 錆止め塗料塗り (7.3.2) (7.3.3) (表7.3.1)~ (表7.3.4) 錆止め塗料種別 鉄鋼面 A種 ・ B種 垂れめつき鋼面 ・ A種 ・ B種 ・ C種 錆止め塗料塗り種別 鉄鋼面 A種 ・ B種 ・ C種 垂れめつき鋼面 ・ A種 ・ B種 ・ C種 4 合成樹脂調合ベ イント塗り(SOP) (7.4.2) (7.4.3~7.4.5) (表7.4.1)~ (表7.4.3) 塗料種別 ・ 1種 ・ () 種別 下地 種別 ・ 木部 ・ A種 ・ B種 ・ C種 ・ 鉄鋼面 ・ A種 ・ B種 ・ C種 ・ 垂れめつき鋼面 ・ A種 ・ B種 ・ C種 5 クリヤラッカー 塗り(DL) (7.5.2) (表7.5.1) 種別 木部 ・ A種 ・ B種 6 アクリル樹脂系 非水分散形塗料 (NAD) (7.7.2) (表7.7.1) 種別 ・ A種 ・ B種 7 耐候性塗料塗り (DP) (7.8.2)~ (7.8.4) (表7.8.1)~ (表7.8.3) 上塗り等級 ・ 1級(フッ素系) ・ 2級(シリコン系) ・ 3級(ポリウレタン系) 下地 種別 鉄鋼面 ・ A種 ・ B種 ・ C種 垂れめつき鋼面 ・ A種 ・ B種 ・ C種 コンクリート面及び 押出成形セメント板面 ・ A-1種 ・ A-2種 ・ B-1種 ・ B-2種 ・ C-1種 ・ C-2種

8 5 耐震 改修 工事 あと 施工 アンカー 工事	1 あと施工アンカーの材料 (8.2.4) (表8.2.2)	種類 ・ 金属系 セットの方式 ・ 本体打込み式 (・ 改良型 ・ 従来型) 径及び埋込み長さ ・ 図示 (図面番号:) 引張耐力 ・ 図示 (図面番号:) せん断耐力 ・ 図示 (図面番号:) 接合筋の種類・径・長さ ・ 図示 (図面番号:) ・ 接着系 カプセル型回転 ・ 打撃式 ・ 有機系 ・ 無機系 径及び埋込み長さ ・ 図示 (図面番号:) 引張耐力 ・ 図示 (図面番号:) せん断耐力 ・ 図示 (図面番号:) アンカー筋の種類 ・ 図示 (図面番号:) アンカー筋の新設壁内への定着長さ ・ 図示 (図面番号:) あと施工アンカーの性能確認試験 ・ 行う ・ 行わない
	2 あと施工アンカーの施工 (8.12.4) (8.12.6) (8.12.7)	穿孔 埋込み配管等の探査の方法 ・ 鉄筋探知機 (金属探知機) により検査し、鉄筋、配管類の位置に墨出しを行う。 ・ はつり出しによる。 ・ () あと施工アンカーの施工確認試験 ・ 実施する ・ 実施しない 試験方法 ・ 引張試験機による引張試験 ・ () 1ロットの単位 ・ 1日に施工されたものの径及び仕様ごと () 試験の箇所数 ・ 1ロットに対し3本 (無作為) ・ () 確認強度 ・ ()
3 シアコネクタ (場所打ちコンクリート壁の増設工事) (8.12.4) (8.12.7)	場所打ちコンクリート壁の増設部用いる既存部とのシアコネクタ種類 ・ 金属系あと施工アンカーの異形差筋アンカー ・ 接着系あと施工アンカーの異形差筋アンカー 径 [mm] ・ D10 長さ [mm] ・ 増打壁厚 - 40 ・ () 彫込み深さ [mm] ・ 5d (d: シアコネクタの径) 以上 ・ () 間隔 [mm] ・ 500×500 シアコネクタとセパレーターの兼用 ・ 兼用してもよい ・ 兼用しない ・ ()	

8 6 耐震 改修 工事 鉄骨 工事	1 鉄骨製作工場 (8.1.5)	㈱日本鉄骨評価センター又は㈱全国鉄骨評価機構の「鉄骨製作工事の性能評価基準」に定めるグレードとして国土交通大臣から認定を受けた工場又は同等以上の能力のある工場 ・ J ・ R ・ M ・ H ・ S
	2 鉄骨製作工場における施工管理技術者 (8.1.6)	施工管理技術者 (鉄骨製作管理技術者、鉄骨工事管理責任者等) の配置 ・ しない ・ する
	3 鋼材 (8.2.8)	種類・形状及び寸法 ・ 図示 (図面番号:)
	4 高力ボルト (8.2.9) (8.14.2) (8.14.7)	高力ボルトの適用 ・ トルシア形高力ボルト2種 (S10T) ・ JIS形高力ボルト2種 (F10T) ・ 溶融亜鉛めっき高力ボルト1種 (F8T相当) ねじの呼び ・ 図示 (図面番号:) すべり試験 ・ 行う (試験方法等 図示: 図面番号) JIS形・ナット回転法かつボルト長がねじの5倍を超える場合の回転量 ・ ()
	5 溶接材料 (8.2.10)	・ 改修標準仕様書 (8.2.10) (1) (2) 以外の溶接材料 材料及び使用箇所 ・ 図示 (図面番号:)
	6 仮組 (8.13.10)	仮組の実施 ・ 実施する () ・ 実施しない
	7 溶接作業を行う技能資格者 (8.15.3)	溶接作業における技能資格者の技量付加試験 ・ 実施する () ・ 実施しない
	8 溶接の準備 (8.15.4)	開先の形状 ・ 図示 (図面番号:)
	9 溶接施工 (8.15.7)	鋼製エンドタブの切断 ・ 適用箇所 図示 (図面番号:) 切断面の仕上げ ・ () 鋼製エンドタブに代わるその他の工法 鋼製エンドタブに代わるその他の工法については、代替エンドタブ (セラミックタブ又はフラックスタブ) を用いたものとし、工法の採用にあたっては、以下の項目の両方とも満足することを条件とし、監督員の承諾を受けること。 1. 相当数の代替エンドタブによる溶接を行ったことがある工場での製作であること。 2. 製作工場がJ、R、Mグレードの場合は、溶接技能者がNPO法人日本エンドタブ協会による圓形タブに係るエンドタブ施工講習修了者 (溶接技能者・A級以上) 又はAW検定協議会による代替エンドタブ技量認定資格者とする。また、製作工場がH、Sグレードの場合は、溶接技能者がAW検定協議会による代替エンドタブ技量認定資格者とする。こと。 板厚が異なる場合の突合せ継手溶接部 ・ 低応力高サイクル疲労を受ける部位 図示 (図面番号:) スカラップの形状 ・ 図示 (図面番号:)
	10 溶接部の試験 (8.15.12)	溶接部の外観試験 ・ 試験方法 () ・ 確認方法 () 完全溶込み溶接部の超音波探傷試験 工場溶接の場合 ・ 全数試験とする ・ 公共建築工事標準仕様書 (平成31年版) (7.6.12) (4) による。 平均出検品質限界 (AOQL) ・ 4.0% ・ 2.5% ・ () 検査水準 ・ 第6水準 ・ () ロットの構成 () 工事現場溶接の場合 ・ 全数試験とする ・ 公共建築工事標準仕様書 (平成31年版) (7.6.12) (4) による。 平均出検品質限界 (AOQL) ・ 4.0% ・ ()

1.1 鉄骨の錆止め塗装 (8.17.2) (8.17.4)	鉄骨鉄筋コンクリート造の鋼製スリーブの内面 (鉄骨に溶接されたものに限る) ・ 改修標準仕様書 (7.3.2) (表7.3.1) () 種 耐火被覆材の接着する面の塗装範囲 ・ 図示 (図面番号:) ・ 改修標準仕様書 (7.3.2) (表7.3.1) () 種 耐火被覆材の接着する面以外の塗装範囲 ・ 図示 (図面番号:)								
1.2 耐火被覆材の種類及び性能 (8.18.2) (8.18.3)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>部位</th> <th>種類</th> <th>材料・工法</th> <th>耐火性能</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	部位	種類	材料・工法	耐火性能				
部位	種類	材料・工法	耐火性能						
1.3 ブレース設置工事後の仕上げ (8.22.9)	・ 図示 (図面番号:)								
1.4 スタッド (8.2.11)	スタッドの種類 ・ ()								

8 7 耐震 改修 工事 グラウト 工事	(グラウト工事) 1 モルタル及びグラウト材 (8.2.6) (表8.2.5) (表8.2.10)	構造体用モルタル ・ 改修標準仕様書 (8.2.6) 及び (8.2.12) による。 無収縮モルタル ・ 改修標準仕様書 (8.2.12) (1) による ・ () グラウト材 ・ 改修標準仕様書 (8.2.12) (1) による。 増設の現場打ち鉄筋コンクリート壁と既存構造体との隙間の処置方法								
	2 現場打ち鉄筋コンクリート壁の増設工事及び鉄骨ブレースの設置工事等)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>部位</th> <th>処理方法</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・ 増設壁の上部</td> <td>・ グラウト材を注入 ・ ()</td> <td>・ 寸法は図示による</td> </tr> <tr> <td>・ ()</td> <td>・ ()</td> <td>・ ()</td> </tr> </tbody> </table>	部位	処理方法	備考	・ 増設壁の上部	・ グラウト材を注入 ・ ()	・ 寸法は図示による	・ ()	・ ()
部位	処理方法	備考								
・ 増設壁の上部	・ グラウト材を注入 ・ ()	・ 寸法は図示による								
・ ()	・ ()	・ ()								
2 既存構造体との取合部の処理方法 (8.21.9) (8.22.7)										

8 8 耐震 改修 工事 柱 補強 工事	(連続繊維補強工事) 1 連続繊維シート等による工法 (8.24.1)	連続繊維による補強、補修工法 ・ (財)日本建築防災協会の評価を受けた工法とする。 ・ ()
	2 連続繊維シート及び含浸接着樹脂等の材料 (8.2.13)	連続繊維の材料 ・ () 工法 ・ () 引張強度 (含浸硬化後) ・ () ヤング係数 (含浸硬化後) ・ ()
	3 連続繊維シートの施工準備	仕上げモルタルの除去 ・ 既存構造体面まで除去する ・ モルタル除去は行わない ・ () 既存モルタルの圧縮強度測定 ・ 行う () ・ 行わない
	4 鋼板巻き工法及び帯板巻き付け工法 (8.23.6)	ひび割れ部の改修工法 ・ 樹脂注入工法 ・ リカットシール材充填工法 ・ シール工法 柱頭柱脚の隙間寸法 ・ 図示 (図面番号:)
	5 耐震補強後の仕上げ (8.23.7) (8.24.5)	・ 図示 (図面番号:)
	6 炭素繊維シート施工 (8.24.6)	炭素繊維の目付量 ・ 図示 (図面番号:) ・ 200g/m ² ・ 300g/m ² ・ () 炭素繊維シートの巻き数 ・ 図示 (図面番号:) ・ 1巻き ・ 2巻き ・ ()
	7 連続繊維補強材の強度試験 (8.24.6)	引張強度試験 ・ 実施する (JIS A1191に準拠する) 試験数量 () ・ 実施しない

8 9 耐震 補強 工事 スリット 新設 工事 免震 改修 工事 制振 改修 工事	(耐震スリット新設工事) 1 スリットの種類 (8.25.1) (8.25.2)	付着強度試験 ・ 実施する (JIS A6909に準拠する) 試験数量 () ・ 実施しない 耐震スリットの種類及び形状 完全スリットの形状 <table border="1"> <thead> <tr> <th>記号</th> <th>一般型</th> <th>一面せん断型</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>形状</td> <td>・ 図示 (図面番号:)</td> <td>・ 図示 (図面番号:)</td> </tr> <tr> <td>幅W (mm)</td> <td>・ 図示 (図面番号:) ・ ()</td> <td>・ 図示 (図面番号:) ・ ()</td> </tr> <tr> <td>既存鉄筋の処理</td> <td>・ 既存鉄筋はつり出し ・ 切断してよい ・ ()</td> <td>・ 切断してよい ・ ()</td> </tr> </tbody> </table> 部分スリットの形状 <table border="1"> <thead> <tr> <th>記号</th> <th>片側スリット</th> <th>両面スリット</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>形状</td> <td>・ 図示 (図面番号:)</td> <td>・ 図示 (図面番号:)</td> </tr> <tr> <td>幅W (mm)</td> <td>・ 図示 (図面番号:) ・ ()</td> <td>・ 図示 (図面番号:) ・ ()</td> </tr> <tr> <td>目地部の残存厚さ</td> <td>・ 壁厚の1/2以下かつ70mm以下</td> <td>・ 壁厚の1/2以下かつ70mm以下</td> </tr> <tr> <td>ts (mm)</td> <td>・ ()</td> <td>・ ()</td> </tr> <tr> <td>既存鉄筋の処理</td> <td>・ 存置する ・ 既存鉄筋はつり出し ・ 切断してよい ・ ()</td> <td>・ 存置する ・ 切断してよい ・ ()</td> </tr> </tbody> </table>	記号	一般型	一面せん断型	形状	・ 図示 (図面番号:)	・ 図示 (図面番号:)	幅W (mm)	・ 図示 (図面番号:) ・ ()	・ 図示 (図面番号:) ・ ()	既存鉄筋の処理	・ 既存鉄筋はつり出し ・ 切断してよい ・ ()	・ 切断してよい ・ ()	記号	片側スリット	両面スリット	形状	・ 図示 (図面番号:)	・ 図示 (図面番号:)	幅W (mm)	・ 図示 (図面番号:) ・ ()	・ 図示 (図面番号:) ・ ()	目地部の残存厚さ	・ 壁厚の1/2以下かつ70mm以下	・ 壁厚の1/2以下かつ70mm以下	ts (mm)	・ ()	・ ()	既存鉄筋の処理	・ 存置する ・ 既存鉄筋はつり出し ・ 切断してよい ・ ()	・ 存置する ・ 切断してよい ・ ()
	記号	一般型	一面せん断型																													
形状	・ 図示 (図面番号:)	・ 図示 (図面番号:)																														
幅W (mm)	・ 図示 (図面番号:) ・ ()	・ 図示 (図面番号:) ・ ()																														
既存鉄筋の処理	・ 既存鉄筋はつり出し ・ 切断してよい ・ ()	・ 切断してよい ・ ()																														
記号	片側スリット	両面スリット																														
形状	・ 図示 (図面番号:)	・ 図示 (図面番号:)																														
幅W (mm)	・ 図示 (図面番号:) ・ ()	・ 図示 (図面番号:) ・ ()																														
目地部の残存厚さ	・ 壁厚の1/2以下かつ70mm以下	・ 壁厚の1/2以下かつ70mm以下																														
ts (mm)	・ ()	・ ()																														
既存鉄筋の処理	・ 存置する ・ 既存鉄筋はつり出し ・ 切断してよい ・ ()	・ 存置する ・ 切断してよい ・ ()																														
2 スリットの施工 (8.26.1)~(8.27.9)	スリット部の配管等の調査 範囲 ・ スリット新設部に伴う鉄筋コンクリートの撤去範囲全て。 ・ 図示 (図面番号:) ・ () 方法 ・ 鉄筋探知機 (金属探知器) により探査し、鉄筋、配管類の位置に墨出しを行う。 スリットの逃げ位置 壁上部部 ・ 梁との接合部 ・ () 壁の柱きわ部 ・ 柱の仕上げを逃がしたきわ部 ・ () 壁下部部 ・ 床仕上げ上部 ・ 床体上部 ・ () 撤去部の補修 ・ 図示 (図面番号:) 充填材 ・ 耐火材 使用箇所 () 仕様 () ・ 遮音材 使用箇所 () 仕様 () 免震改修、制振改修に関する仕様は、図示する。																															

8 10 その他 工事	1 土工事 (8.28.2) (8.28.3)	既存杭の撤去 ・ 図示 (図面番号:) 埋戻し及び盛土の材料及び工法 ・ A種 ・ B種 ・ C種 ・ D種 建設発生土の処理 ・ 自由処分 ・ 処分地指定 処分地 () ・ 処分地未定につき相互協議する。暫定運搬距離 8km 山留めの撤去 ・ 撤去 (鋼矢板等の抜き跡の処理 ・ 直ちに砂で充填する ・ ()) ・ 存置
	2 地業工事 (8.28.4)	杭の施工監理 杭工事特記仕様書による。 適用基準 本特記事項に個別に記載の適用基準に加え、以下の基準を適用する。 国土交通省告示第468号 「基礎ぐい工事の適正な施工を確保するために講ずべき措置」 (平成28年3月4日) 施工記録 受注者は、杭の施工期間中は、1週間ごとに、その週に施工した杭の施工記録を取りまとめ、翌週以内に監督員に、工事打合せ簿を添付したうえで提出し、確認を受けること。また電流値が記録されたチャート紙等の原本を合わせて提示し、必ず監督員の確認を受けること。 なお、取得すべき施工記録が取得できない場合に、当該施工記録に代替する記録を確保するための手法については、施工計画書に明記しておくこと。 根拠資料 共通仕様書、特記仕様書及びその他標準書の定めにより作成した施工管理資料の根拠となる資料 (施工記録の原本、チャート紙、電子的な記録やプリントアウト紙等) は、受注者において全て適切に管理し、保管しなければならない。 保管期間は契約書第31条第4項又は第5項 (第38条においてこれらの規定を準用する場合を含む。) の規定による引渡しを受けた日から10年とする。 また、発注者から請求があった場合は、速やかにこれらを提出または提示しなければならない。 試験杭及び試験掘 ・ 試験杭 位置、本数及び寸法は図示 (図面番号:) による。 ・ 試験掘 位置、本数及び寸法は図示 (図面番号:) による。 杭の支持層 支持層の位置、土質、杭の根入れ長さ ・ 図示 (図面番号:) ・ () 水平方向の位置ずれの精度 ・ () mm以下 杭の載荷試験 試験方法 ・ 鉛直載荷 ・ 水平載荷 ・ () 試験の方法及び報告書の記載は、敷地調査共通仕様書による。 位置 ・ 図示 (図面番号:) 載荷荷重 (KN) 報告書 ・ 提出部数 2部

地盤の載荷試験
 試験方法 ・ 平板載荷 ・ ()
 試験の方法及び報告書の記載は、敷地調査共通仕様書による。
 位置 ・ 図示(図面番号:) 載荷荷重 (kN)
 報告書 ・ 提出部数 2部

杭地業の工法、寸法
 ・ 図示(図面番号:)

杭頭処理
 ・ 行う ・ 行わない

砂利及び砂地業
 範囲 ・ 図示(図面番号:) 厚さ(mm) ・ 60 ・ ()

捨てコンクリート地業
 範囲 ・ 図示(図面番号:) 厚さ(mm) ・ 50 ・ ()

9 環境配慮改修工事

1 石綿含有建材の除去工事 (9.1.1)

施工調査
 ・ 石綿含有建材の事前調査
 工事着手前に先立ち、石綿含有建材の使用について、目視、設計図書及び貸与資料等により書面調査及び現地調査し、監督職員に報告する。
 調査範囲 ・ 図示(図面番号:) ・ ()
 貸与資料 ()

分析による石綿含有建材の調査
 分析対象
 アクチノライト、アモサイト、アンソフィライト、クリソタイト、クロシドライト、トレモライト
 分析方法
 ・ JIS A 1481-1(建材製品中のアスベスト含有率測定方法-第1部:市販バルク材からの試料採取及び定性的判定方法)による
 ・ JIS A 1481-2(建材製品中のアスベスト含有率測定方法-第2部:試料採取及びアスベスト含有の有無を判定するための定性分析方法)による
 ・ JIS A 1481-3(建材製品中のアスベスト含有率測定方法-第3部:アスベスト含有率のX線回折定量分析方法)による
 ・ JIS A 1481-4(建材製品中のアスベスト含有率測定方法-第4部:質量法及び顕微鏡法によるアスベストの定量分析方法)による

材料名	定性分析	定量分析
	・ 箇所数 ()	・ 箇所数 ()
	・ 箇所数 ()	・ 箇所数 ()
	・ 箇所数 ()	・ 箇所数 ()
	・ 箇所数 ()	・ 箇所数 ()

サンプル数 1箇所あたり3サンプル
 採取箇所 ・ 図示(図面番号:) ・ ()

石綿粉じん濃度測定
 測定時期、場所及び測定点

適用	測定名称	測定時期	測定場所	測定点 (各施工箇所ごと)
・	測定 1	処理作業前	処理作業室内	計 点
・	測定 2		調査対象外部の付近	計 点
・	測定 3	処理作業中	処理作業室内	計 点
・	測定 4		負圧・除じん装置の排出吹出し口 以下の位置	計 点
・	測定 5		処理作業室外(敷地境界)	計 点
・	測定 6	処理作業後(シート養生中)	処理作業室内	計 点
・	測定 7	処理作業後シート撤去後、週間以降	処理作業室内	計 点
・	測定 8		調査対象外部の付近	計 点

測定方法

	測定 3	測定 1, 2, 4, 6, 7, 8	測定 5
メンブレンフィルタ直径(mm)	25	25	47
試料の吸引流量(L/min)	・ 1 ・ ()	・ 5 ・ ()	・ 10 ・ ()
試料の吸引時間(min)	・ 5 ・ ()	・ 120 ・ ()	・ 240 ・ ()

(9.1.3) 石綿含有吹付け材の除去
 除去対象範囲 ・ 図示(図面番号:)
 除去工法 ・ 改修標準仕様書9.1.3(2)(7)による
 除去した石綿含有吹付け材等の飛散防止
 ・ 湿潤化 ・ 固形化
 除去した石綿含有吹付け材等の処分
 ・ 埋立処分(管理型最終処分場) ・ 中間処理(熔融又は無害化による)

(9.1.4) 石綿含有保温材等の除去
 除去対象範囲 ・ 図示(図面番号:)
 除去方法 ・ 改修標準仕様書9.1.4(1)による
 除去した石綿含有保温材等の処分
 ・ 埋立処分(管理型最終処分場) ・ 中間処理(熔融又は無害化による)

(9.1.5) 石綿含有成形板の除去
 除去対象範囲 ・ 図示(図面番号:)
 石綿含有せっこうボードの処分
 ・ 埋立処分(管理型最終処分場)
 石綿含有せっこうボードを除く石綿含有成形板の処分
 ・ 埋立処分(安定型最終処分場) ・ 中間処理(熔融又は無害化による)

石綿含有仕上塗材の除去
 除去対象範囲 ・ 図示(図面番号:)
 除去した石綿含有仕上塗材等の処分
 ・ 埋立処分(管理型最終処分場) ・ 中間処理(熔融又は無害化による)

※「石綿含有仕上塗材の除去等作業における石綿飛散防止対策について」(平成29年5月30日付け環水大発第1705301号)及び「建築物の改修・解体時における石綿含有建築用仕上塗材からの石綿粉じん飛散防止処理技術指針」(平成28年4月28日 国立研究開発法人 建築研究所)に基づき適切に処理すること。

2 断熱アスファルト防水改修工事 (9.2.1)~(9.2.3)

改修特記仕様書3章による

3 外断熱改修工事 (9.3.2)

断熱材

種類	厚さ[mm]
・ ビーズ法ポリスチレンフォーム断熱材	
・ 押出法ポリスチレンフォーム断熱材(スキンなし)	
・ 硬質ウレタンフォーム断熱材	
・ フェノールフォーム断熱材	
・ ロックウール断熱材	
・ グラスウール断熱材	
・ ()	

施工箇所 ・ 図示(図面番号:) ・ ()

外装材

種類	防火性能	備考
・		

(9.3.3) 既存外壁の措置
 既存外壁仕上げ材の撤去 ・ あり ・ なし
 下地面の清掃 ・ 行う ・ 行わない
 欠損部の改修工法 ・ 充填工法 ・ モルタル塗替え工法 ・ ()

(9.3.4) 工法
 通気層の有無 ・ あり (mm) ・ なし
 断熱材の施工 ・ 断熱材製造所の仕様による ・ ()
 外装材の施工 ・ 外装材製造所の仕様による ・ ()
 建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法
 ・ 適用する(建築基準法に基づき定まる風圧力の(・ 1 ・ 1.15 ・ 1.3)倍の風圧力に対応した工法)
 ・ 適用しない
 不陸等の下地調整 ・ 行う

4 断熱・防露改修工事 (9.5.2)

断熱材打込み工法

種類	厚さ[mm]
・ ビーズ法ポリスチレンフォーム断熱材	
・ 押出法ポリスチレンフォーム断熱材(スキンなし)	
・ 硬質ウレタンフォーム断熱材	
・ フェノールフォーム断熱材	
・ ()	

施工箇所 ・ 図示(図面番号:) ・ ()

(9.5.3) 断熱材現場発泡工法
 断熱材の種類 ・ A種1 ・ A種1H ・ ()
 厚さ(mm) ・ 25 ・ 30 ・ ()
 施工箇所 ・ 図示(図面番号:)

現場発泡断熱材(品質・性能)
 工事建築材料等品質性能表による(試験方法)
 工事建築材料等品質性能表による

(9.5.4) 断熱材後張り工法

種類	せっこうボード等の張り付け	厚さ[mm]
・ ビーズ法ポリスチレンフォーム断熱材	・ 有 ・ 無	
・ 押出法ポリスチレンフォーム断熱材	・ 有 ・ 無	
・ 硬質ウレタンフォーム断熱材	・ 有 ・ 無	
・ フェノールフォーム断熱材	・ 有 ・ 無	
・ ()	・ 有 ・ 無	

施工箇所 ・ 図示(図面番号:) ・ ()

5 屋上緑化改修工事

植栽基盤及び材料
 屋上緑化軽量システム
 ・ 適用する ・ 適用しない
 芝及び地被類の樹種並びに種類等 ・ 図示(図面番号:) ・ ()
 見切り材、舗装材、排水孔、マルチング材等 ・ 図示(図面番号:) ・ ()

(9.6.1) (9.6.2)

(9.6.3) 工法
 建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法
 ・ 適用する(建築基準法に基づき定まる風圧力の(・ 1 ・ 1.15 ・ 1.3)倍の風圧力及び積雪荷重に対応した工法)
 ・ 適用しない

かん水装置 ・ 設置する(種類 ・)
 既存保護層の撤去 ・ 行う ・ 行わない

6 透水性アスファルト舗装改修工事 (9.7.2)~(9.7.7)(9.7.9)

既存舗装の撤去及び再利用 ・ 図示(図面番号:) ・ ()

路床

路床の材料

種別	材料	厚さ[mm]
・ 盛土	・ A種 ・ B種 ・ C種 ・ D種 ・ 建設汚泥から再生した処理土	・ 図示(図面番号:) ・ ()
・ 凍上抑制層	・ 再生クラッシュラン ・ クラッシュラン ・ 切込み砂利 ・ 川砂、海砂又は良質な山砂(7μmふるい通過量10%以下) ・ ()	・ 図示(図面番号:) ・ ()
・ フィルター層	・ 砂 ・ ()	・ 図示(図面番号:) ・ ()

路床安定処理
 ・ 添加材料による安定処理
 種類 ・ 普通ポルトランドセメント ・ フライアッシュセメントB種
 ・ 生石灰(・特号 ・ 1号) ・ 消石灰(・特号 ・ 1号)
 添加量 (kg/m2) (目標CBR ・ 5以上 ・)

・ ジオテキスタイル
 単位面積質量 ・ 60g/m2以上 ・ ()
 厚さ[mm] ・ 0.5~1.0 ・ ()
 引張強さ ・ 98N/5cm (10kgf/5cm)以上 ・ ()
 透水係数 ・ 1.5×10⁻¹cm/sec以上 ・ ()

試験
 路床土の支持力比(CBR)試験 ・ 行う ・ 行わない
 路床締固め度の試験 ・ 行う ・ 行わない
 現場CB試験 ・ 行う ・ 行わない

路盤
 路盤の構成及び厚さ ・ 図示(図面番号:) ・ ()
 路盤材料 ・ 再生材のクラッシュラン
 ・ クラッシュラン鉄鋼スラグ
 ・ 図示(図面番号:)
 ・ ()

試験
 路盤締固め度の試験 ・ 行う ・ 行わない

舗装

材料	厚さ[mm]
ストレートアスファルト	・ 図示(図面番号:) ()

試験
 開粒度アスファルト混合物等の抽出試験 ・ 行う ・ 行わない
 舗装の平坦性 ・ 著しい不陸がないもの ・ ()

□改修概要

・屋根改修工事（必要に応じて、内部養生及び竣工後清掃を行うこと）

防水改修工事に先立ち、既存笠木の一部を仮撤去し、防水納まりの確認検討をおこなうこと。

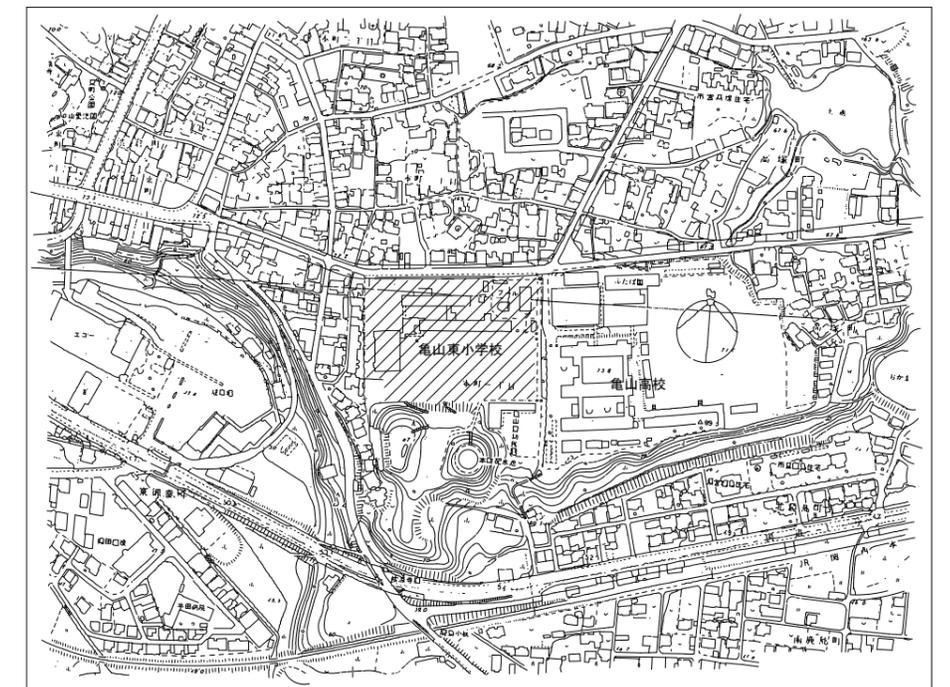
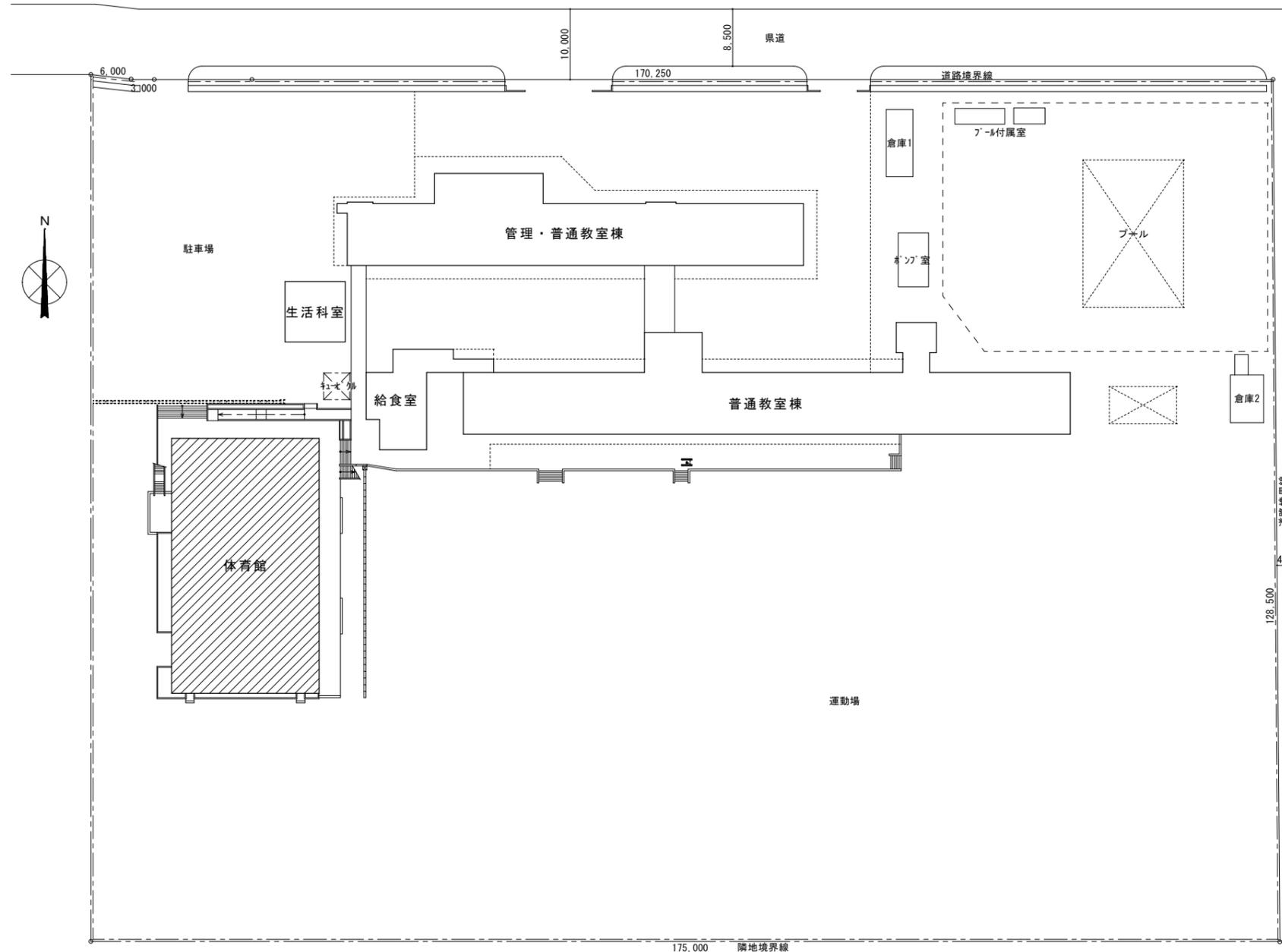
・内部床修繕工事

□外部仕上表

	屋根	笠木	外壁	巾木	庇	備考
改修前	機械固定工法シート防水	アルミ笠木（仮撤去）	コンクリート打ち放し補修の上複層塗材E吹付	モルタル刷毛引き	塗膜防水	
改修後	既存防水の上 塩ビシート防水(高耐久仕様)t=1.5 機械固定工法	アルミ笠木 復旧（既存アルミ笠木使用）	既存のまま	既存のまま	既存のまま	ステンレスタラップ新設

□内部仕上表

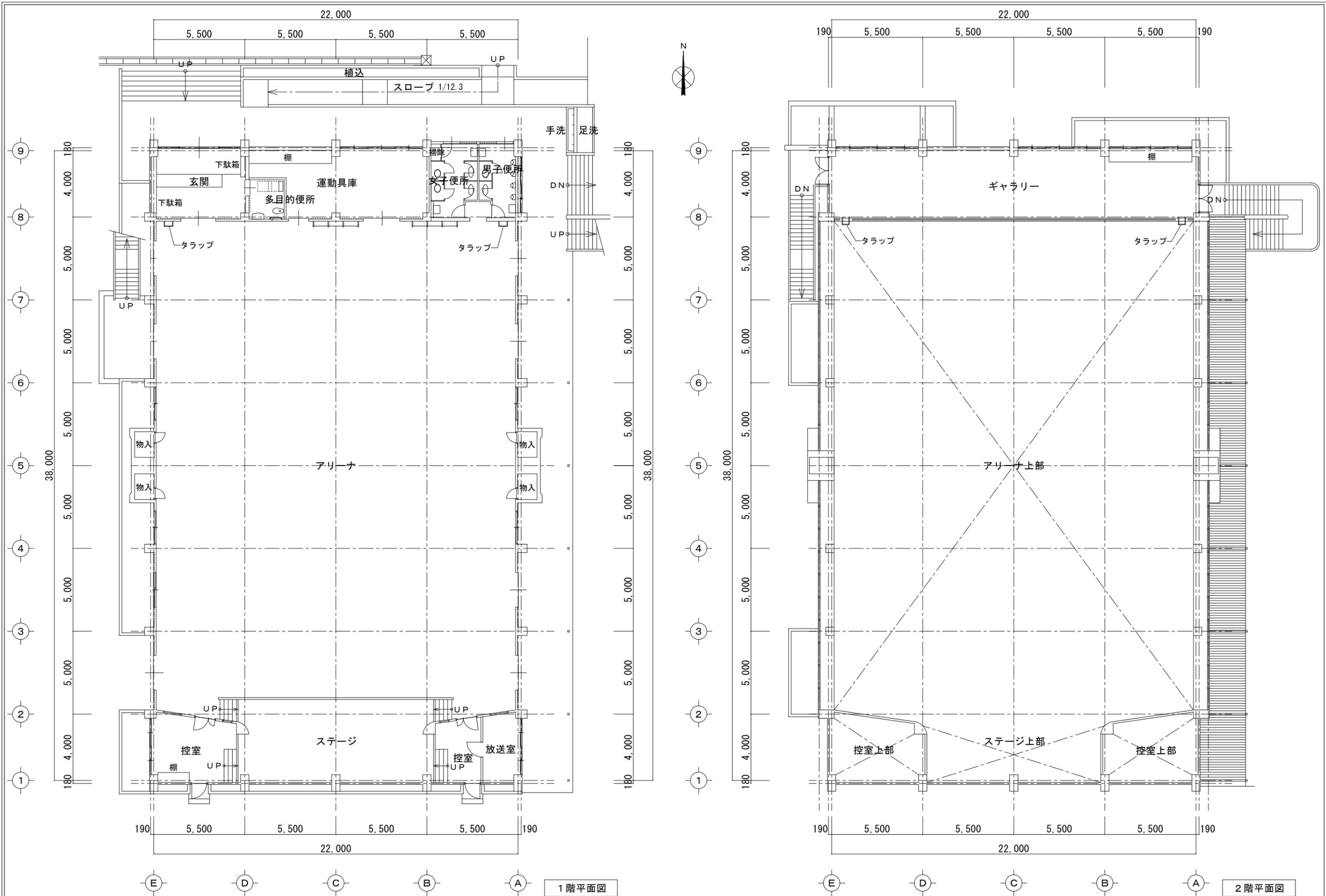
	床	巾木	壁	天井	備考
アリーナ	改修前 スーパーフロアG(ナラ)の上ポリウレタン塗装	木製巾木H=100 SOP塗装	有孔シナ合板目透かし張 SOP塗装	立体トラス表し	
	改修後 一部スーパーフロアG(ナラ)t=16張替 又は 一部サンダー掛けの上ポリウレタン塗装3回塗	既存のまま	既存のまま	既存のまま	一部コートライン引き



附近見取図

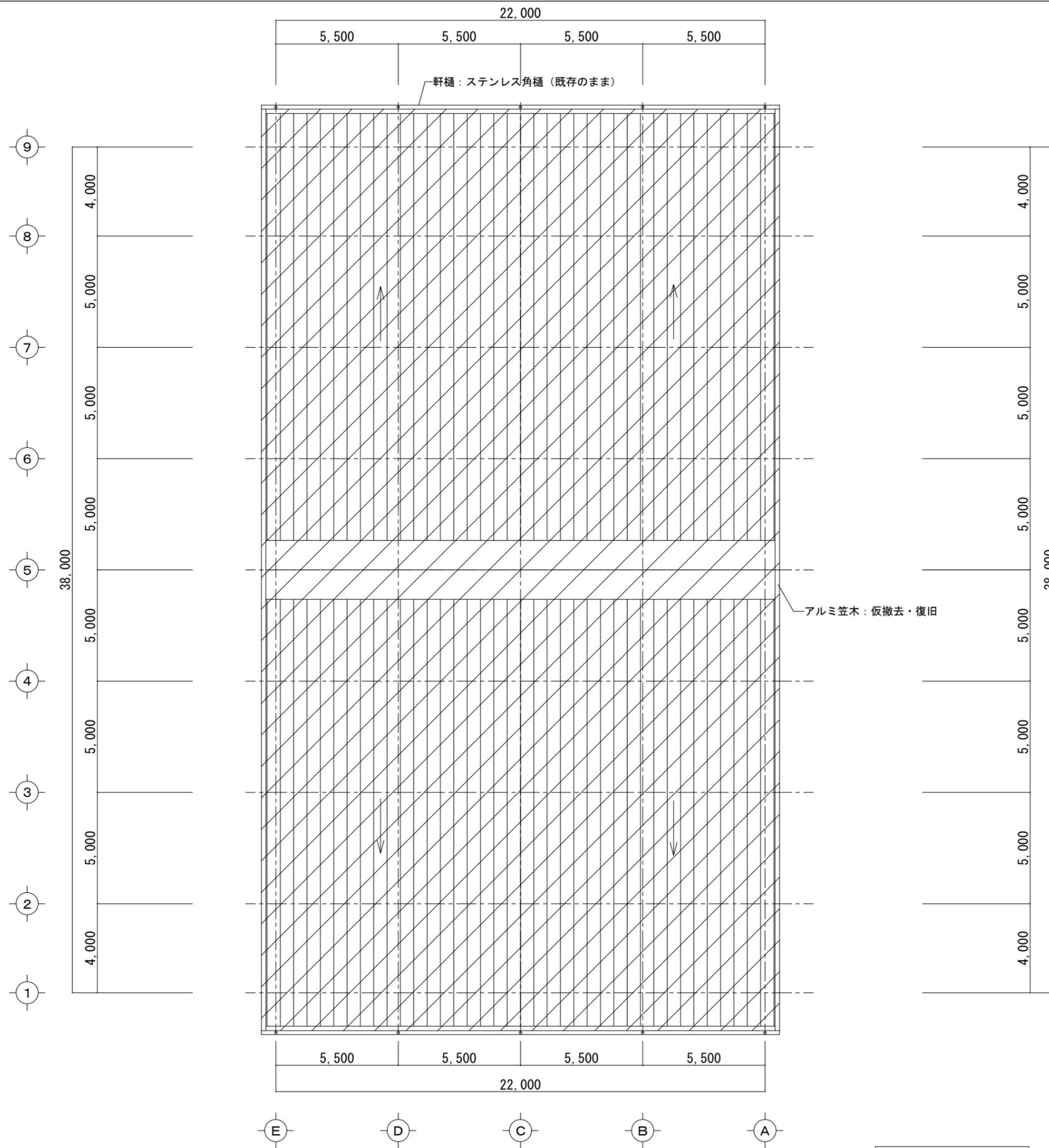
特別・普通教室棟	1,921.00㎡
普通教室棟	1,901.00㎡
給食室	153.59㎡
生活科室	81.90㎡
体育館	956.65㎡
倉庫1	40.00㎡
倉庫2	41.63㎡
ホンヅ室	36.00㎡
プール付属棟	28.44㎡
合計	5,160.21㎡

配置図



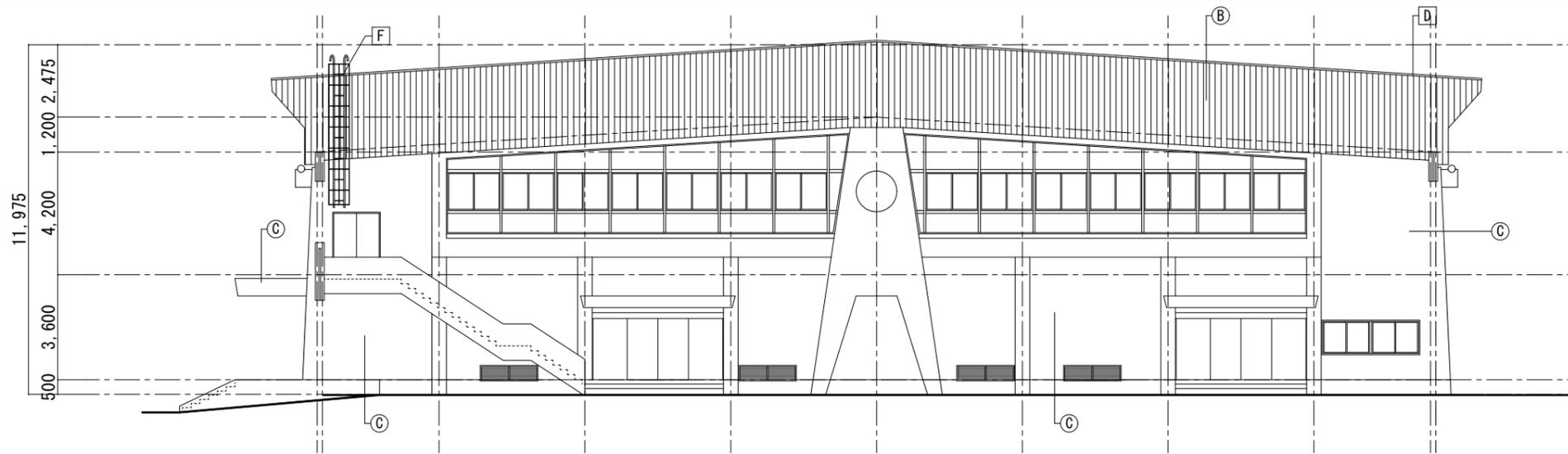
1階平面図

2階平面図

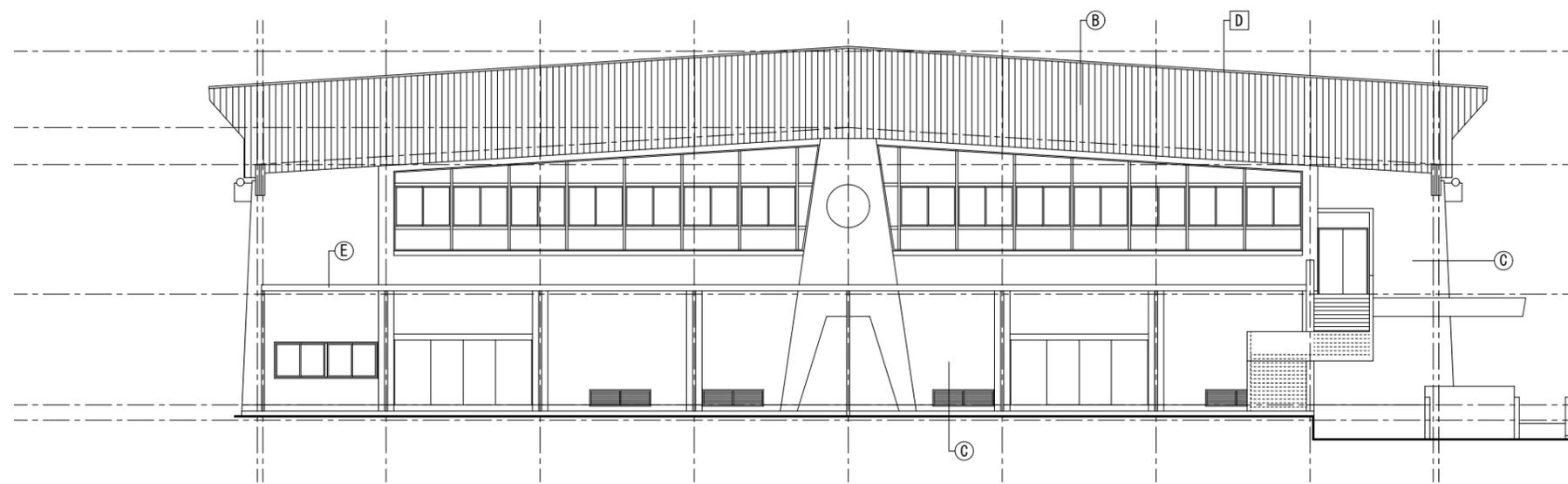


凡例
 防水改修範囲を示す

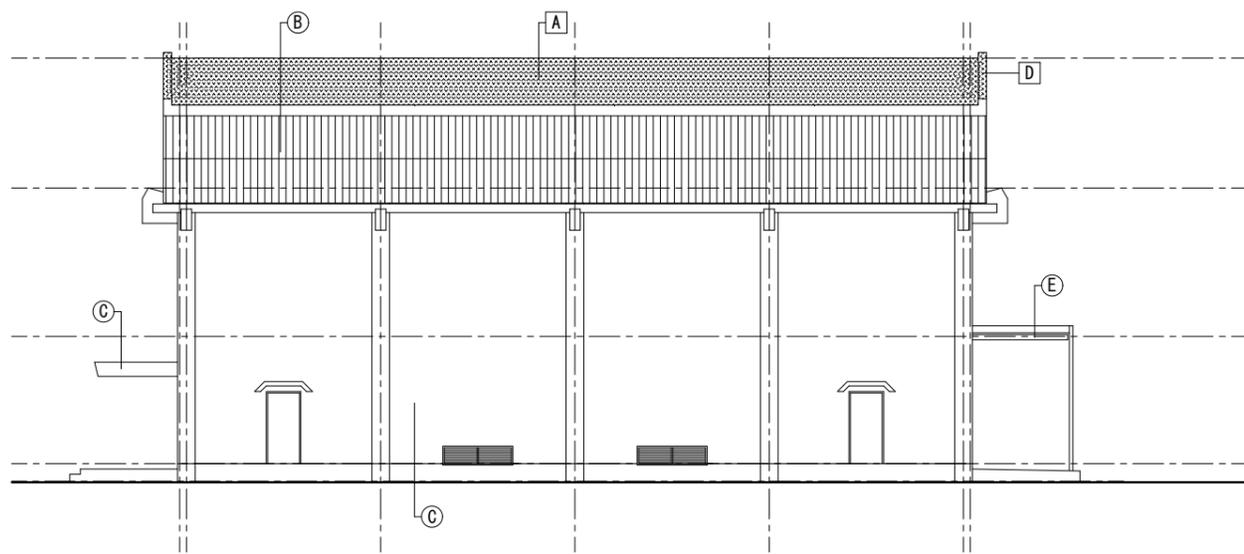
屋根伏図



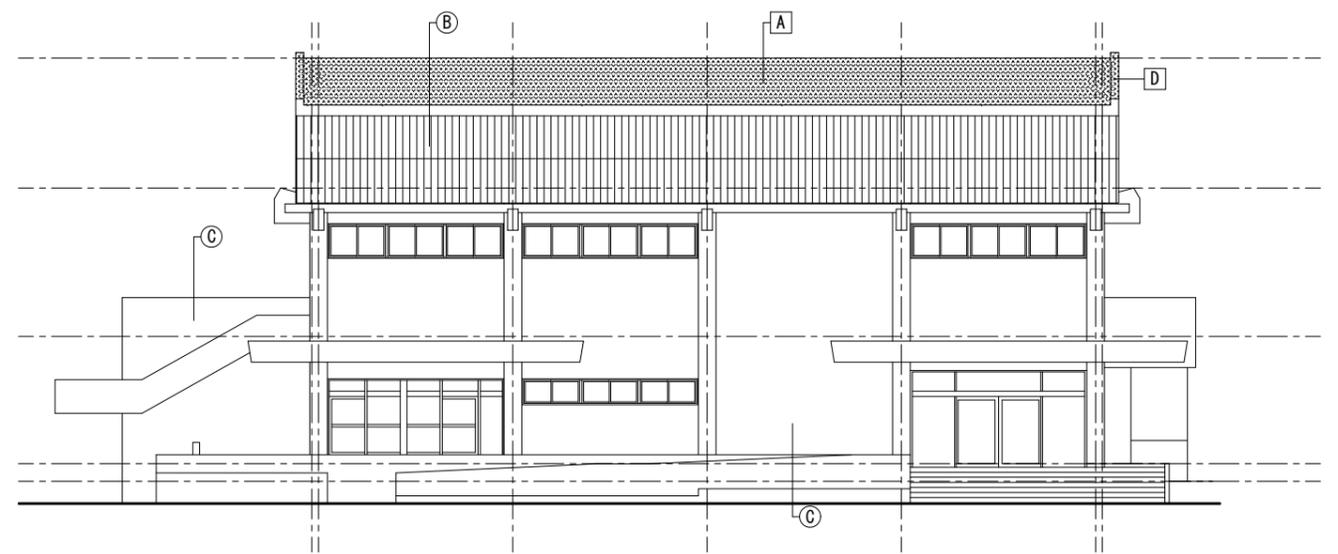
西立面図



東立面図



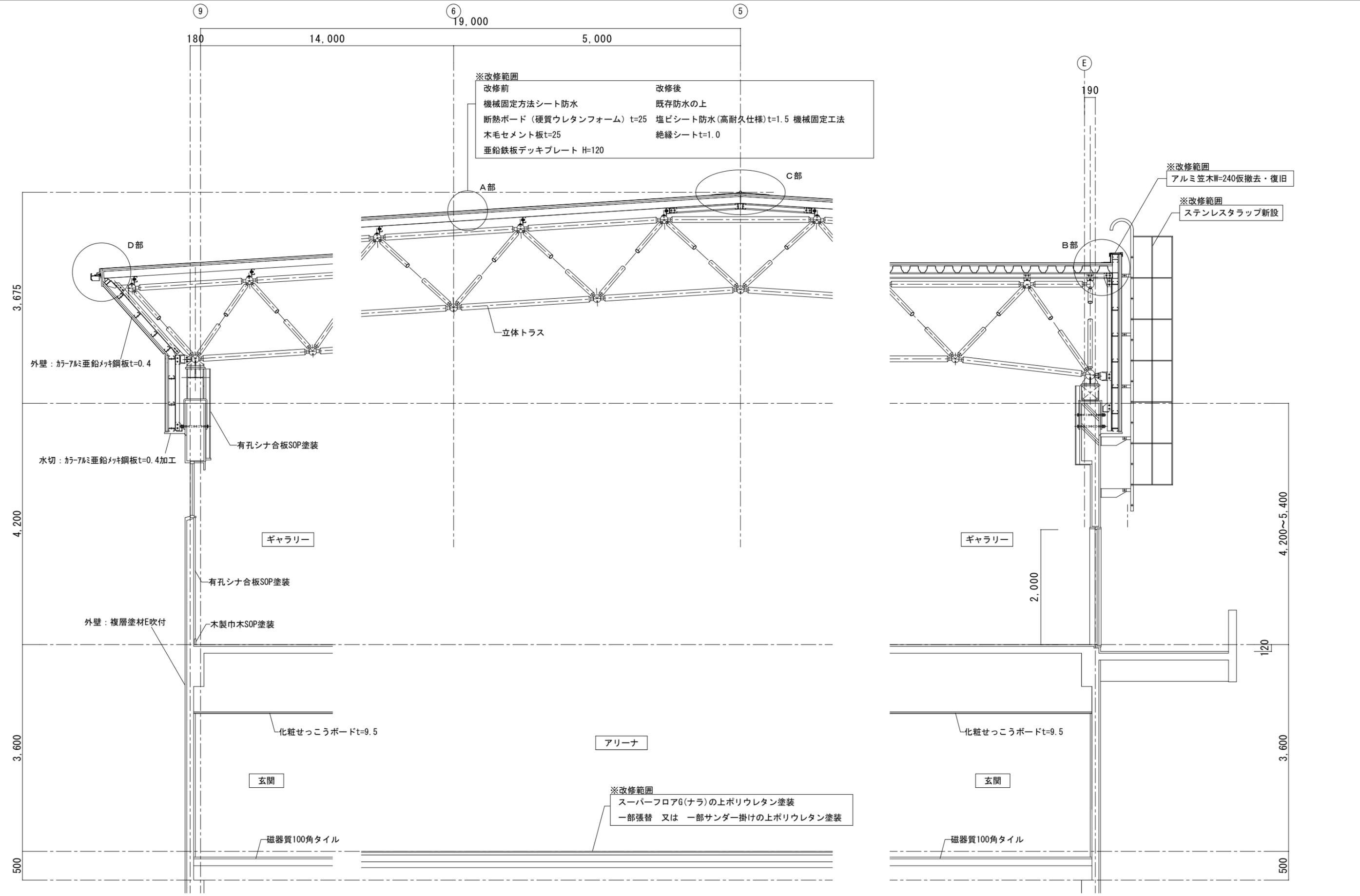
南立面図



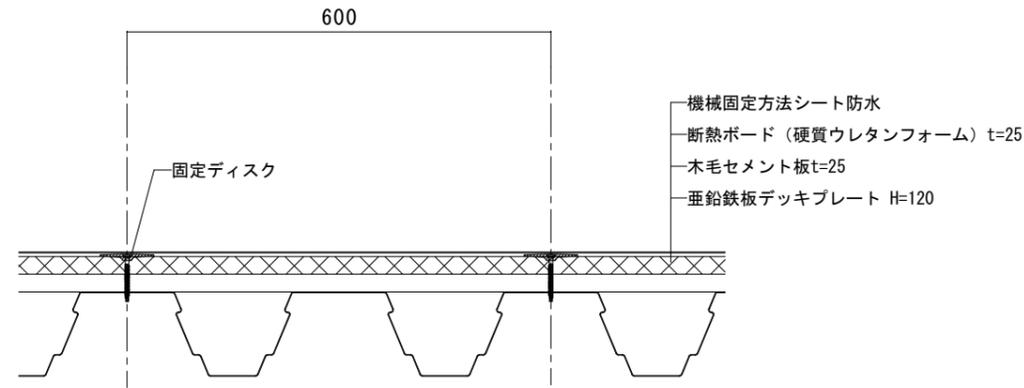
北立面図

外部仕上 凡例

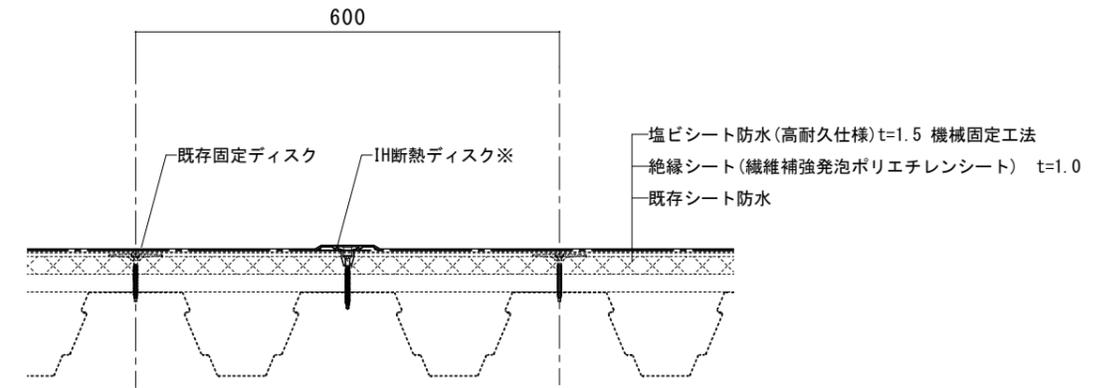
A	シート防水（既存防水）の上 塩ビシート防水（高耐久仕様）t=1.5
B	カラーアルミ亜鉛メッキ鋼板t=0.4
C	複層塗材E吹付
D	アルミ笠木w=240 仮撤去・復旧
E	折板屋根
F	ステンレスタラップ新設
備考	
符号 ※ は改修範囲を示す。	



改修前 A部(屋根平部) 詳細図

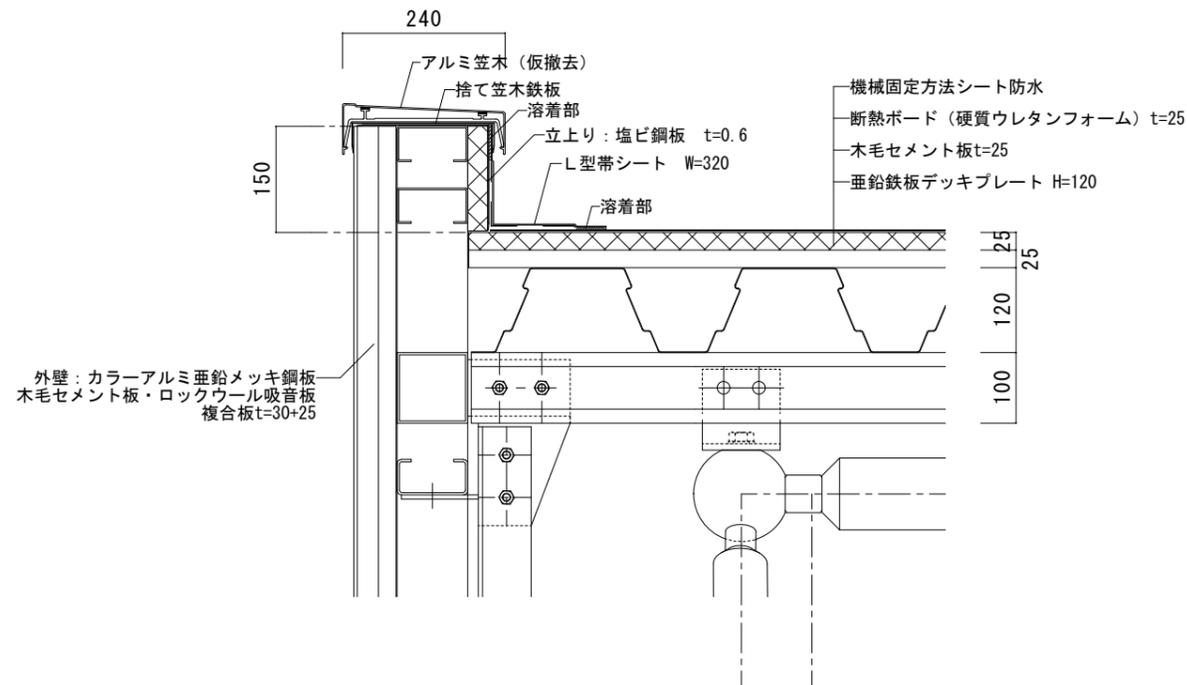


改修後 A部(屋根平部) 詳細図

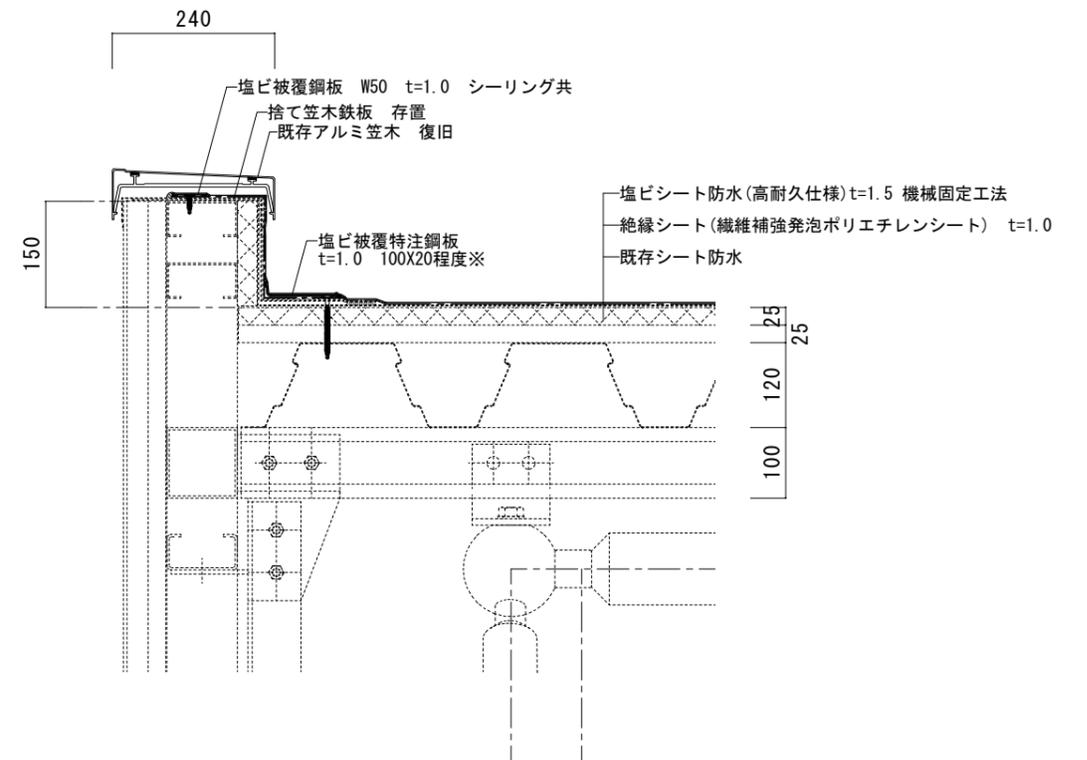


※ 新設ディスクは既存ディスクと干渉しない箇所に打設すること。
 ※ ディスク固定ピッチは耐風圧性能を検討、計算の上、決定とする。

改修前 B部(パラペット) 詳細図

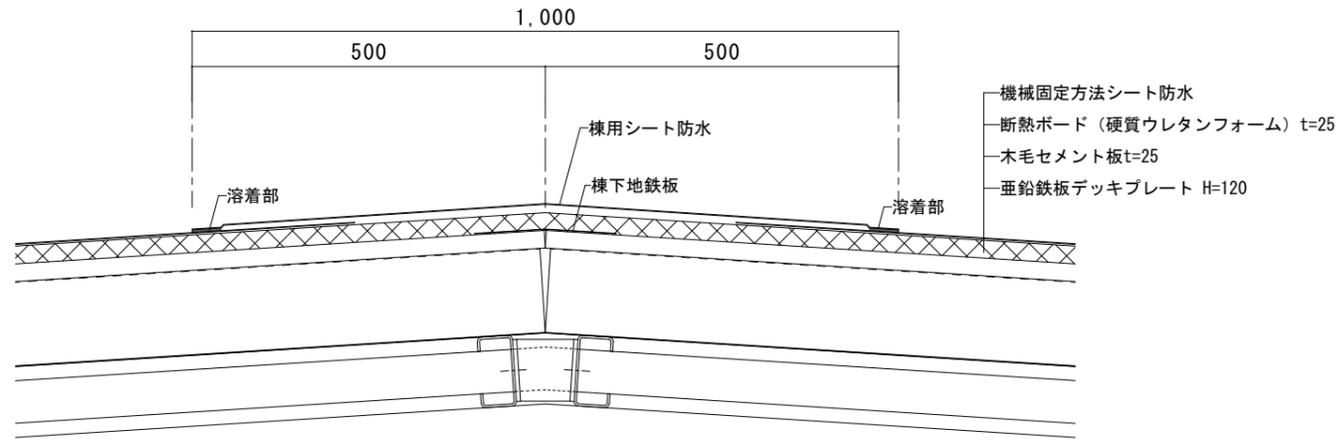


改修後 B部(パラペット) 詳細図

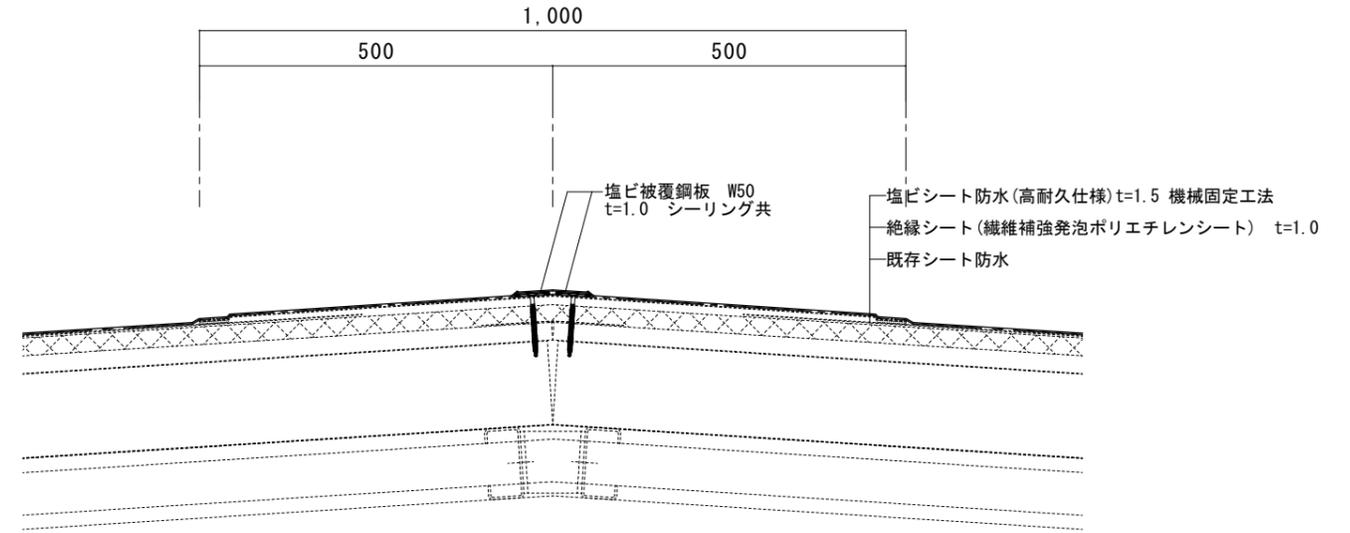


※ パラペット入隅部のFL鋼板はデッキ山部に固定とする。

改修前 C部(棟部) 詳細図

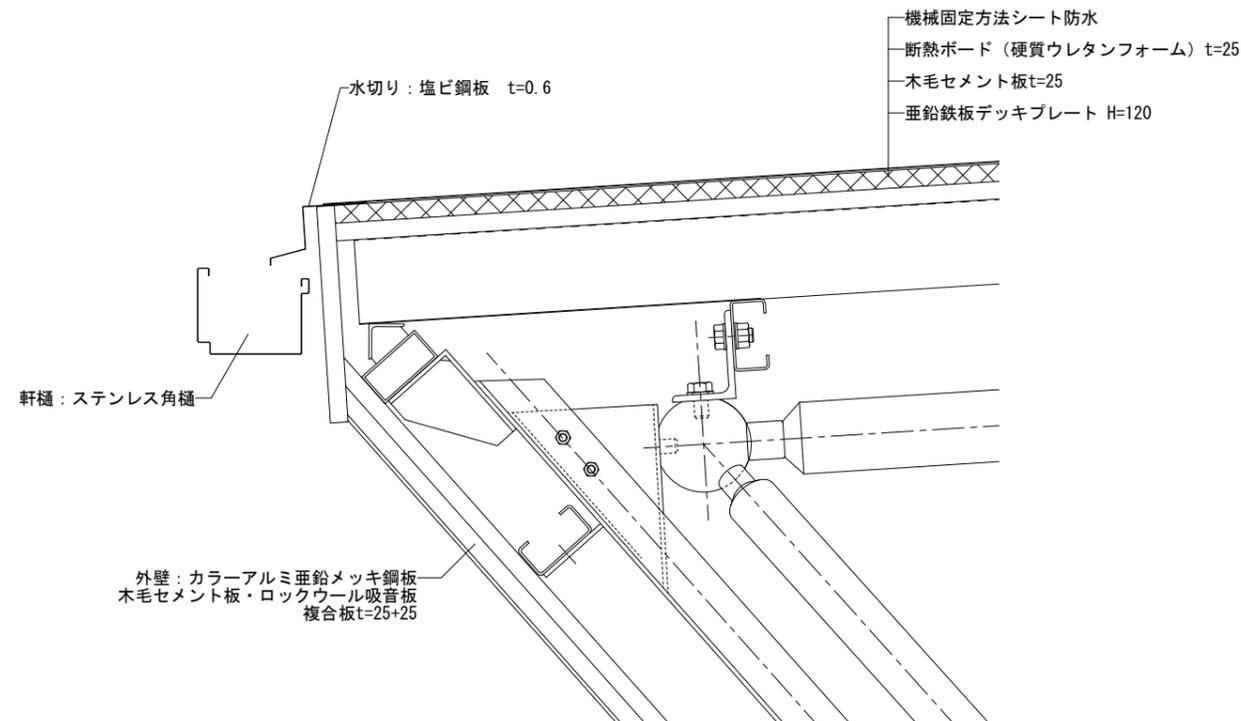


改修後 C部(棟部) 詳細図

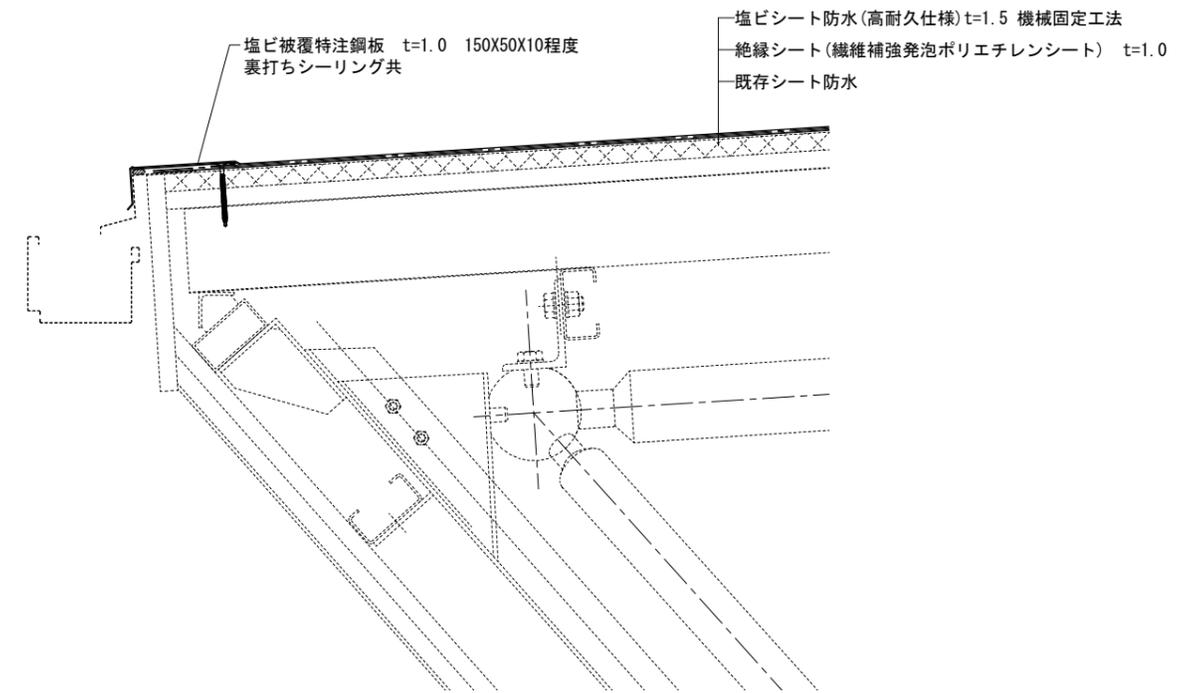


※ 棟部のFL鋼板はデッキ山部に固定とする。

改修前 D部(軒先) 詳細図

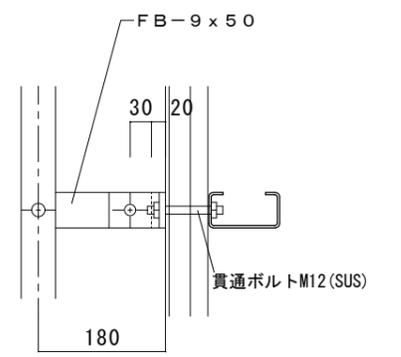
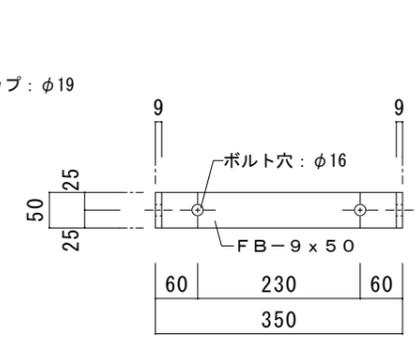
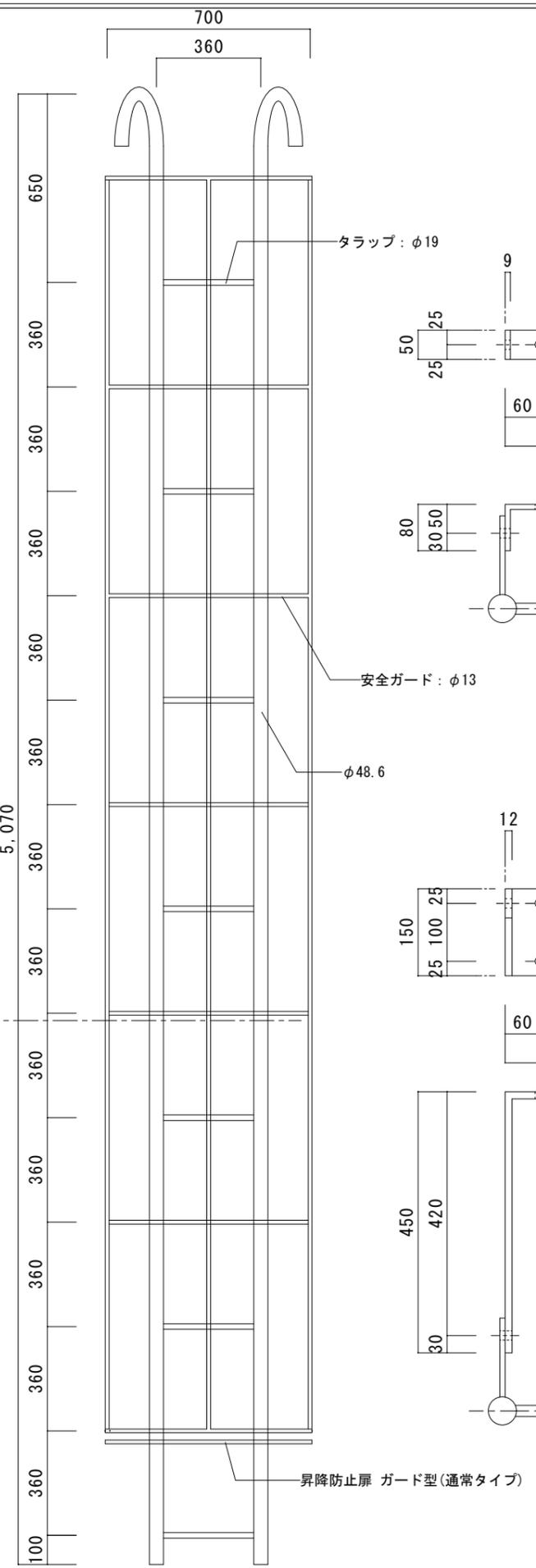
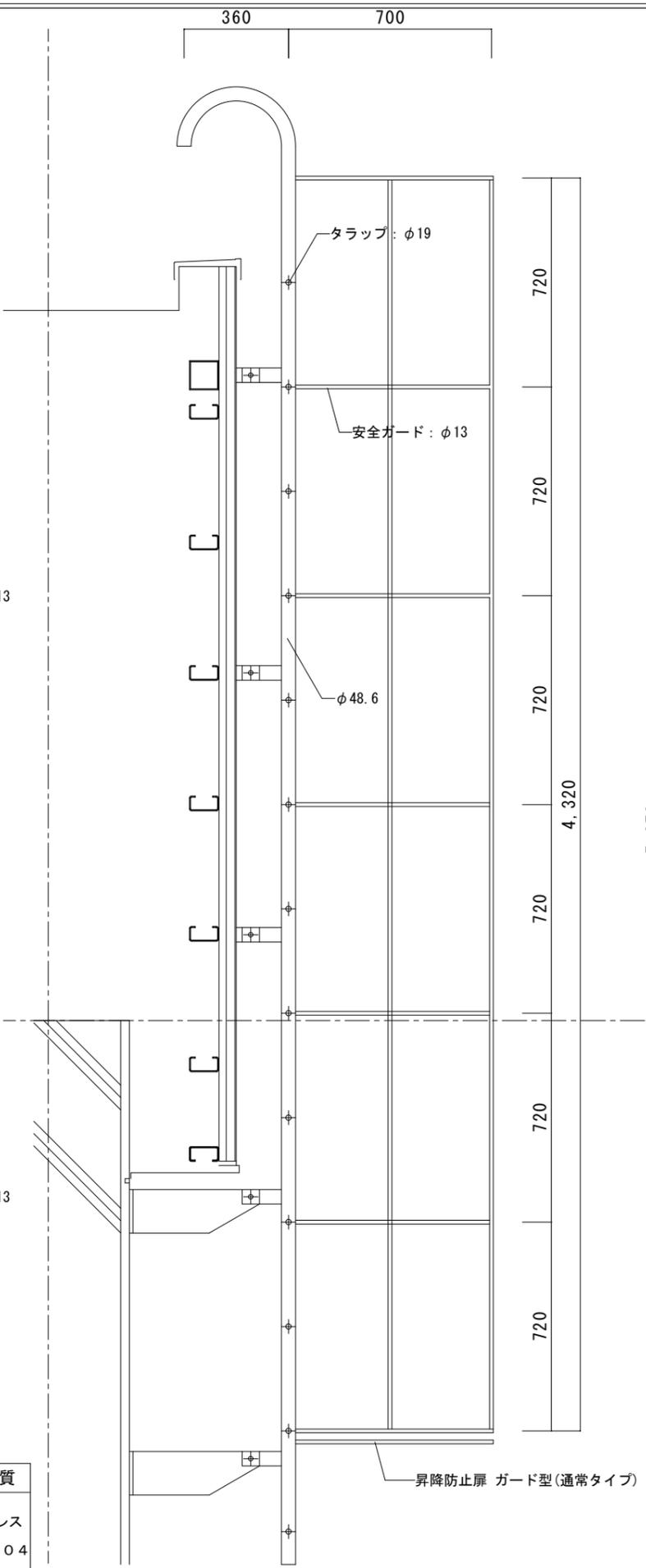
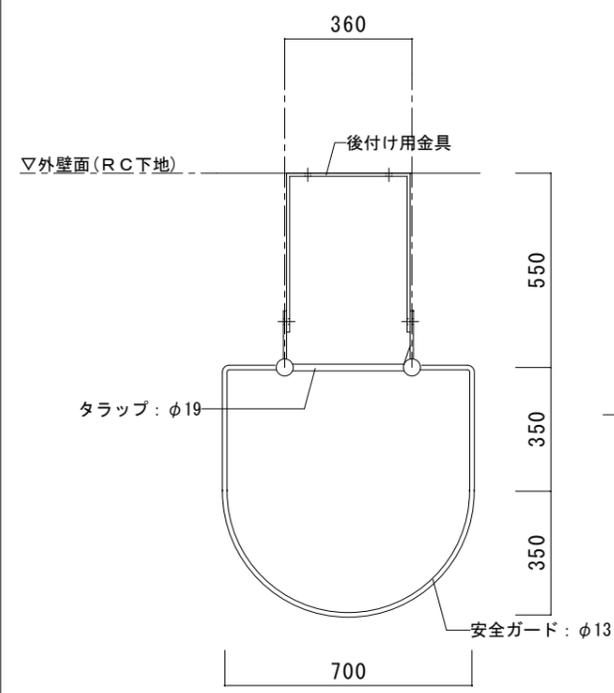
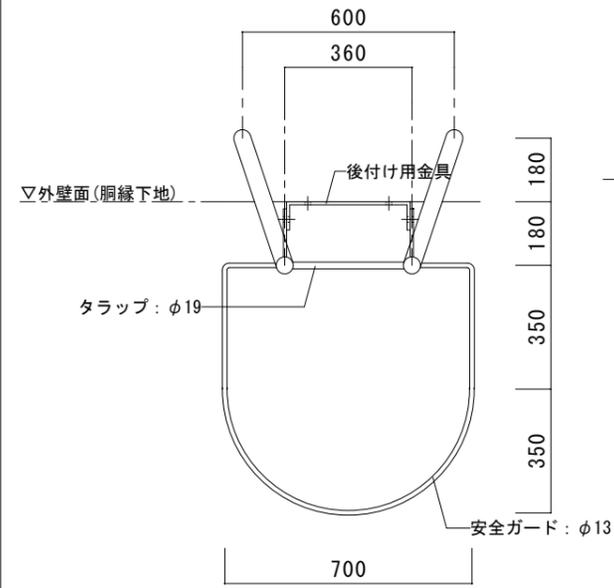


改修後 D部(軒先) 詳細図

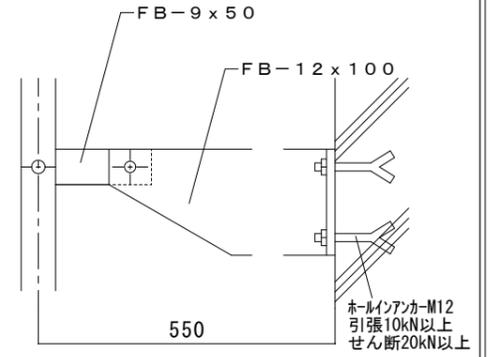
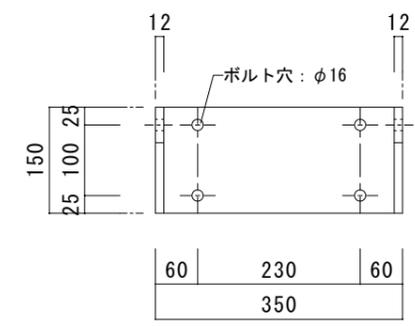


※ 端末部のFL鋼板はデッキ山部に固定とする。

タラップ 詳細図



後付け用金具詳細図 1/10 (鉄骨胴縁部)



後付け用金具詳細図 1/10 (RC部)

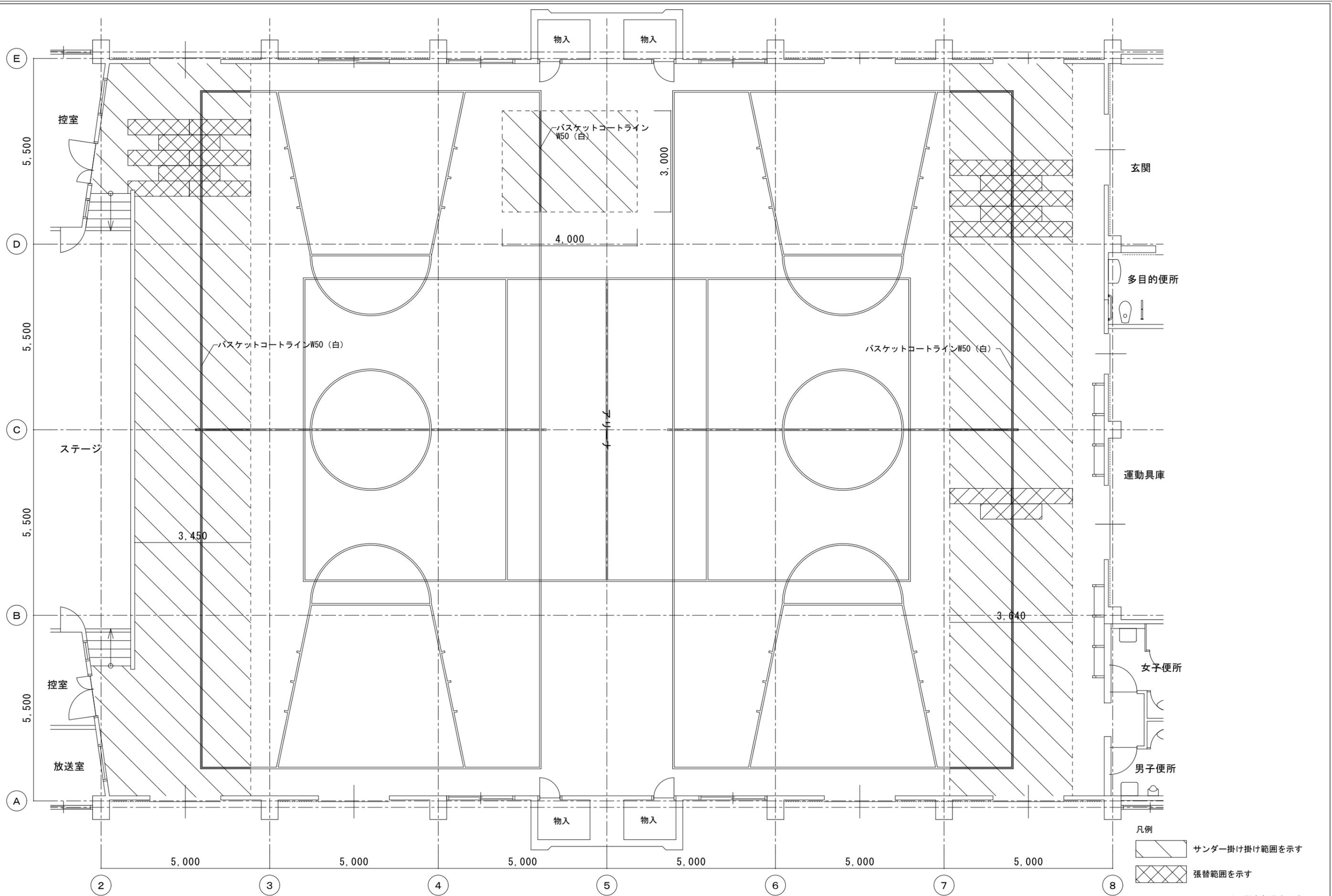
部材リスト

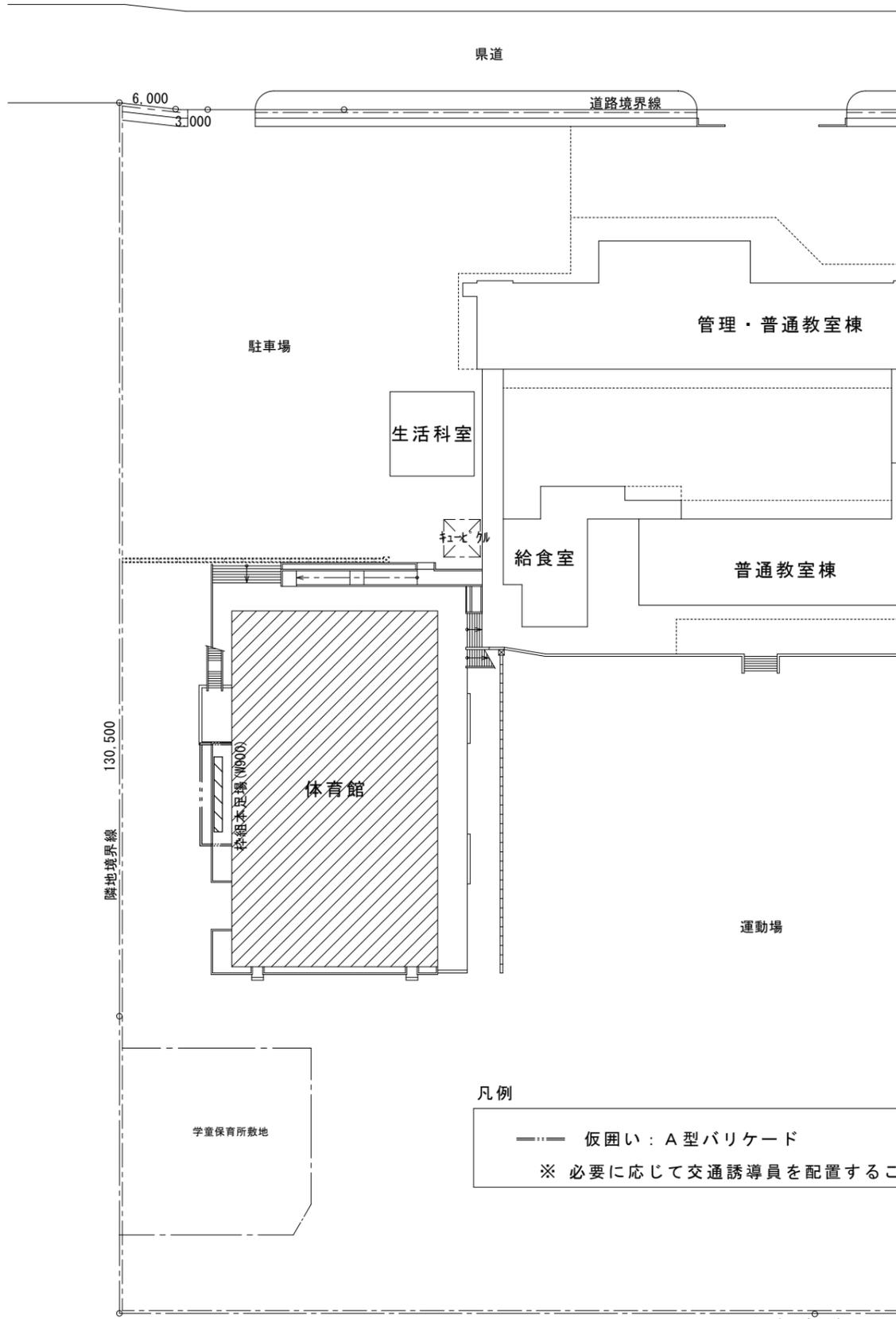
部材	サイズ	仕上	材質
タラップ 本体	φ19 x 360 x φ48.6	パフ研磨	ステンレス SUS304
安全ガード	φ13 x 700		
昇降防止扉	ガード型(通常タイプ) φ13 x 600 x 700		

工事名称 亀山東小学校体育館屋根改修工事
 図面名称 部分詳細図(3)

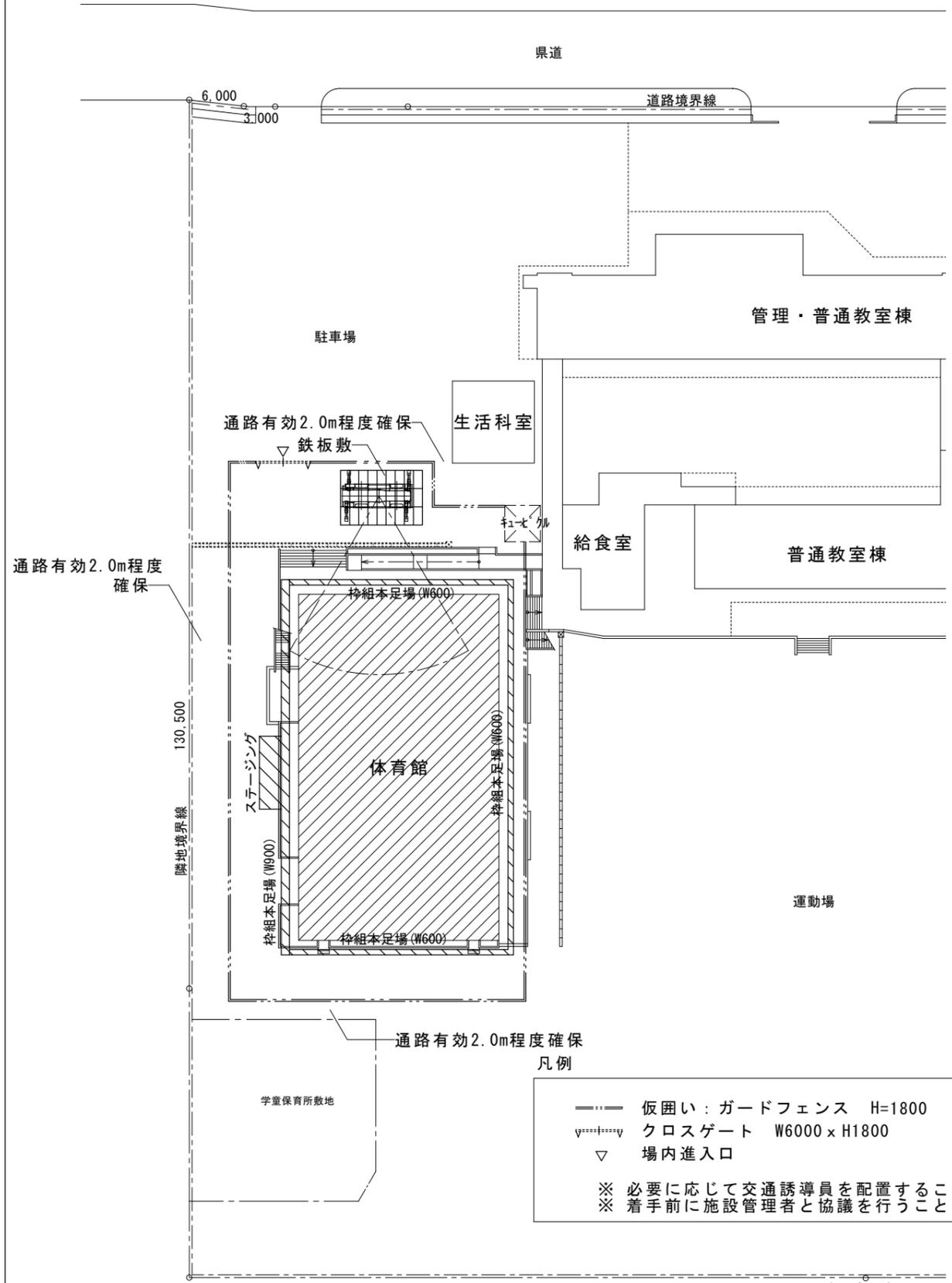
縮尺 A3: 1/20
 日付
 訂正
 担当
 承認
 備考

藤川設計株式会社 一級建築士登録 338601 治田 聡
 A-15





凡例
 - - - 仮囲い：A型バリケード
 ※ 必要に応じて交通誘導員を配置すること



凡例
 - - - 仮囲い：ガードフェンス H=1800
 ▽ クロスゲート W6000 x H1800
 ▽ 場内進入口
 ※ 必要に応じて交通誘導員を配置すること
 ※ 着手前に施設管理者と協議を行うこと